

令和 7 年第 3 回天城町議会定例会議事日程（第 2 号）

令和 7 年 9 月 10 日（水曜日）午前 10 時開議

開議

○日程第 1 一般質問

島 和也 議員

柏木 辰二 議員

奥 好生 議員

久田 高志 議員

散会

1. 出席議員（14名）

| 議席番号 | 氏名 | 議席番号 | 氏名 |
|------|---------|------|---------|
| 1 番 | 松 山 小百合 | 2 番 | 平 岡 寛 次 |
| 3 番 | 島 和 也 | 4 番 | 喜 入 伊佐男 |
| 5 番 | 吉 村 元 光 | 6 番 | 奥 好 生 |
| 7 番 | 昇 健 児 | 8 番 | 大 吉 皓一郎 |
| 9 番 | 久 田 高 志 | 10 番 | 柏 木 辰 二 |
| 11 番 | 前 田 芳 作 | 12 番 | 柏 井 洋 一 |
| 13 番 | 平 山 栄 助 | 14 番 | 上 岡 義 茂 |

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 山 田 悦 和 議会事務局書記 藤 井 美 樹

1. 説明のため出席した者の職氏名

| 職名 | 氏名 | 職名 | 氏名 |
|----------|---------|------------|---------|
| 町 長 | 森 田 弘 光 | 教 育 長 | 院 田 裕 一 |
| 副 町 長 | 袴 清次郎 | 教委総務課長 | 和 田 智 磯 |
| 総 務 課 長 | 福 健吉郎 | 社会教育課長 | 中 秀 樹 |
| 総務課長補佐 | 宇 都 克 俊 | 農 政 課 長 | 上 岡 久 人 |
| 企画財政課長 | 森 田 博 二 | 農地整備課長 | 柚 木 洋 佐 |
| くらしと税務課長 | 高 芳 征 | 建 設 課 長 | 宮 山 浩 |
| 長寿子育て課長 | 廣 田 泰 望 | 農業委員会事務局長 | 廻 美 沙 |
| けんこう増進課長 | 中 村 慶 太 | 水 道 課 長 | 西 松 清 仁 |
| 商工水産観光課長 | 梅 岡 拓 司 | 会 計 課 長 | 関 田 進 |
| | | 選挙管理委員会書記長 | 里 山 浩 一 |

△ 開議 午前１０時００分

○議長（上岡 義茂議員）

おはようございます。これから本日の会議を開きます。
直ちに本日の日程に入ります。

△ 日程第１ 一般質問

○議長（上岡 義茂議員）

日程第１、一般質問を行います。

議席番号３番、島和也議員の一般質問を許します。

○３番（島 和也議員）

町民の皆様、おはようございます。まだまだ残暑も厳しく暑い日が続きますが、皆さん、お体に留意をされて仕事を頑張られてください。

それでは、今回は４項目について質問いたします。過去にも質問した内容がありますが、その後の経過を伺いながら、再度取り上げていきますので、執行部の前向きな答弁をお願いいたします。

１項目め、農政について。

その１、第４次天城町農業ビジョン計画を現在策定中ですが、農家所得を上げるために、園芸作物、例えば、実エンドウ、花き栽培を拡大推進する考えはないか。

２番目、農林水産省が公表した２０２３年市町村別農業産出額（推計）によると、令和５年度の農業産出額が、天城町は３５億５千万で、和泊町は７６億８千万ですが、今後の農業所得を上げるにはどのような構想をお持ちかを伺いたい。

３番目、２年前に、堆肥センター建設計画で先進地へ職員が視察をしておられますが、その後の計画はどうなったかお伺いしたい。

２項目め、町内の樹木の管理について。

その１、トラック高所作業車、いわゆるバケット車を導入して、住民サービスの一環として利用料を設定し、民家の公道へはみ出した樹木の伐採ができないか。

２点目、ユイの里テレビの電線ケーブルを妨げる樹木の剪定をバケット車を使用して定期的に伐採が出来ないか。

３項目め、行政について。

ホームページの携帯ＬＩＮＥアプリを利用した各課の行事発信やお知らせなど、どのような対応になっているか。

４項目め、あまぎ自然と伝統文化体験館について。

その１、完成後の年間のイベント開催数は少ないと思いますので、子育て支援として闘牛場内に移動式屋内遊具を導入して利用させることができないか。

２点目、完成後の農産物販売に向けた組織づくりの進捗状況を伺いたい。

３番目、体験館を含め「うおっちょ」、「山猪工房」、「農産物販売所」を一体として、第三セクター方式にて民間委託運営の方向性を検討できないか。

以上、１回目の質問を終わります。

○議長（上岡 義茂議員）

ただいまの質問に対し、答弁を求めます。森田町長。

○森田 弘光町長

皆さん、おはようございます。

それでは、島議員のご質問にお答えしてまいります。

１項目め、農政について。

その１、第４次天城町農業ビジョン計画を現在策定中だが、農家所得向上のために園芸作物、特に実エンドウ、花き栽培等を拡大する考えはないかということでございます。

お答えいたします。

園芸作物の実エンドウにつきましては、これまでも資材補助及びまた今年度はヒヨドリ被害がありましたため、その軽減のために防鳥ネットの補助なども行い、栽培農家の支援、また拡大を図っているところでございます。

また、花きにつきましては、トルコギキョウを推奨品目として、これまでも資材助成等を行って支援をしてきたところでございます。

実エンドウ、花き栽培等ともに初期経費、そういったことがかかるために、なかなか極端な規模拡大は難しい面もあると思いますが、農業所得の向上の一環として、しっかりと農業ビジョンの計画の中に入れ込み、今後とも取り組んでまいりたいと考えております。

１項目め、農政について、その２、農林水産省が公表しました２０２３年市町村別農業産出額、これは推計ということでございますが、によると、令和５年度の農業産出額が、天城町は３５億５千万、和泊町は７６億８千万ということでございます。今後の農業所得を上げるために、どのような構想をお持ちか伺いたいということでございます。

お答えの中の一環となると思うんですけども、農林水産省が公表した２０２３年市町村別農業産出額、地元の新聞のコピーが、島議員から議員の皆様にはお配りされていると思います。

これの定義といたしますか、農林水産省がこの統計についてということで、各全国

都道府県別の農業産出額を、いわゆる農林業センサスというものを行っておりますが、それを用いて、都道府県、県ごとの農業産出額というものを市町村別に案分して、加工統計したものであるということで、断りの中に、市町村別、いわゆる農水省が発表している市町村別農業産出額は、都道府県別農業産出額を市町村別に案分して推計したものであり、各市町村、私たちが年度ごとに発表しておりますけれども、農業産出額がまた十分に反映されない場合があるという断りもございます。

また、農水省が発表しているこれにつきましては、1月から12月までの1年間ということでありまして、私たちどもは、会計年度に沿って、4月から翌年の3月までの統計を出しております。その中で、このような、こういった数値が出ているということの前提の中で、認識の中で、考えていただければなというふうに思っております。

当然、私たちが今、持っている令和5年度の農業産出額については、天城町が43億円強ということでございます。また、和泊町は和泊町でお持ちですので、この76億が、もしかしたらもっと上に行っているのかも分かりません。そういった状況でございます。

という中で、お答えいたします。

まずは、基幹作物でありますサトウキビでは、機械作業による省力化、土壌診断や堆肥投入による土づくり、病虫害対策等による単収向上により、増産へつなげてまいりたいと考えております。

また、畜産におきましては、商品性の高い子牛生産体系の確立を目指してまいります。そのために、良質の粗飼料の自給率向上を図り、その生産額、また所得向上へつなげてまいりたいと考えております。

バレイショにつきましては、基本である定時・定量・定質の選別・出荷に取り組むとともに、各種研修会や営農指導の強化で、生産技術の向上で増産を図ってまいりたいと考えております。

また、新規作物の推進といたしましては、島農業復活プロジェクトにも取り組んでまいりたいと考えております。

1項目め、農政について、その3、2年前に堆肥センター建設計画で、先進地へ職員が視察をしておりますが、その後の計画はどうなったのか伺いたいということでございます。

お答えいたします。

令和5年度に宮崎県国富町へ、農政課とくらしと税務課の職員で、徳之島愛ランドクリーンセンターが本町へ移設するということを見据えて、視察を行っております。

特に、国富町では、畜ふん、牛のふんと生ごみを合わせて堆肥化する堆肥化処理施設を設置しており、一般ごみに含まれる生ごみの減量化と焼却に要するコスト低減、それに伴う焼却施設の長寿命化、また堆肥として畑に還元することで、農業の基本である土づくりに貢献できる循環型農業の先進地であるということで視察を行っております。

その堆肥センター建設に向けては、J Aあまぎさん、そしてまた関係する方々とも話し合いを進め、早急に具体化できればと考えております。

2項目め、町内の樹木の管理について。その1、トラック高所作業車、いわゆるバケット車を導入して、住民サービスの一環として利用料を設定し、民家の公道へはみ出した樹木の伐採はできないかということでございますが、お答えいたします。

私ども、先日まで「むーるし語ろう会」を開催させていただきましたが、その中でも各集落、ほとんどの集落から要望事項としてあったことは、高齢化などの理由により、個人の敷地の道路へはみ出した高木、高い木の伐採ができないので、役場のほうでお願いできないかということがありました。町全体の課題となっているということを感じております。

現在のところ、高所の伐採作業は、民間業者または建設会社などへ依頼することになると思いますが、特殊な作業なので高額な料金になると考えております。

高所作業車を操縦する場合、特別な講習を受講し、資格を取得する必要がございます。また、バケットでの伐採作業は、熟練の作業員が必要であり、慣れていない方が作業されると、事故の危険性も考えなくてはなりません。

役場でバケット車を購入し、高木を伐採し、町民から作業料金を徴収するという方法は、少しハードルが高いと感じておりますが、その導入の必要性については、引き続き検討させていただきたいと思っております。

2項目め、町内の樹木管理について。

その2、ユイの里テレビの電線ケーブルを妨げる樹木の剪定を、バケット車を使用して定期的に伐採ができないかということでございます。

お答えいたします。

A Y Tケーブルに樹木が覆いかぶさっている場合は、伐採可能な場所については職員が行っておりますが、場所によっては高所での作業となり、ご指摘のとおり、高所作業車、バケット車が必要となるため、管理が追いつかない状況でございます。

また、覆いかぶさっていると断線等のおそれもありますので、職員では伐採が難しい場所などにつきましては、業者に作業を依頼するなど、定期的な管理を行ってまいりたいと考えております。

3項目め、行政について。

その1、ホームページの携帯LINEアプリを利用した各課の行事発信やお知らせ等はどのような対応になっているかということでございます。

お答えいたします。

天城町公式LINEを開設しておりますが、その公式LINEへの行事やお知らせの発信については、各課におきまして、ホームページの更新に併せてLINEに配信される仕組みとなっております。

今後、公式LINEが快適で町民の利便性に貢献できるものとなるよう工夫を重ねてまいりますので、町民の皆様にはアプリへの登録にご協力をお願いしたいと思います。

4項目め、あまぎ自然と伝統文化体験館についてということの中で、その1項目め、完成後、年間のイベント開催日数が少ないと思いますので、子育て支援として、闘牛場内に移動式屋内遊具を導入して利用させることができないかということでございます。

お答えいたします。

子育て中のご家族にとりまして、夏場の暑さ、雨天を避け、屋外へ出かけることを楽しめる場所が増えることは、子育て期を楽しむために大事な要素の一つと考えております。

現在、自然と伝統文化体験館完成後の運用において、年間スケジュールの作成等を大まかに行っているところでございます。闘牛大会開催時期、また観光シーズン時の観光闘牛、また各種イベント開催時期、臨時的なイベントの開催など、月ごとの調整が必要であると考えております。

闘牛との、子供たちの遊具との共用の場所を使用することとなりますと、一方では衛生管理上、解決すべき課題もありますが、当施設の閑散時期に遊具設置が可能かどうか、また、施設の遊具の導入等についても検討させていただきたいと思えます。

4項目め、あまぎ自然と伝統文化体験について、その2、完成後の農産物販売に向けた組織づくりの進捗を伺いたいということでございます。

お答えいたします。

農産物直売所につきましては、運営者の公募を行いました。選考会で協議の上、空の駅あまぎさんに運営を委託することといたしました。

空の駅あまぎさんは、既に農産物等の販売も行っております。新たな組織を立ち上げるということではなく、さらに出荷者、販売物を増やせるような、そういった工夫をしながら、連携しながら進めていきたいと考えております。

4項目め、自然と伝統文化体験館について、その3、体験館を含め「うおっち

よ」、「山猪工房」、「農産物販売所」を一体とした第三セクター方式について、民間委託運営の方向性は検討できないかということでございます。

さきの答弁と一部重複しますが、農産物直売所については、空の駅あまぎさんに運営を委託するということにしておりますが、ご質問の一体的な民間委託での運営は、指定管理等も含め、将来的にも検討してまいりたいと考えております。

以上、島議員のご質問にお答えいたしました。

○3番（島 和也議員）

1回目のご答弁、ありがとうございました。

順次、質問してまいります。

我が町は、農産物というか、第4次農業ビジョン計画に向けてですが、やはりどうしても農家所得を上げるには、現状としてサトウキビ、基幹作物、あと畜産関係、この辺は安定して皆さんが頑張っておられますが、もう少し農家の所得を上げるには、私はやはり園芸作物だと思っております。

その中で、実エンドウに関しましては、6年度ですが、1反当たり10aで100万以上の収益を上げる作物でもあります。平均でも60万、70万ぐらいの売上収益を上げる作物であります。

確かに、初期投資という形で考えますと、支柱やら、イボ竹とか、そういうのを用意しなければいけないですけれども、次年度も使える形ですので、初期的に投資をすると順次使っていけますので、その辺も大いに進めていっていただきたいと思います。

それと、他の園芸作物で言いますと、昔はカボチャとかイモ類、その辺も出荷をしていましたが、県の普及委員というんですか、指導員の方にお話を聞くと、天城町は今、少ないというか、ほぼいないという形で言われました。ただ、カボチャに関しては、伊仙町は60名ぐらいまだやっていますよということで、隣の町でやっているので意識改革ですね、その辺を天城町の農家の方々もやっていければと。

私が言いたいのは、大規模にやるということではなくて、以前も話しましたが、自分の家の周りの、俗に方言で言うあたいばて、この辺の1反、2反ぐらいの畑を順次活用して、そこで収益を上げる作物をどんどんしていければ、そういう方が増えてくれれば自然と作物の収益も上がってくると思いますので、その辺でお願いしたいと思います。

それに対して、課長のほうで何か考えはありませんか。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

現在、園芸につきましては、堆肥助成というのを行っております。

これまで、町が2分の1、JAさんが10分の1の助成を行っていましたが、
相当たり、これまで2tの助成を今年度より3tに増やしております。

また、JAさんも10%から20%の補助の増額を行っており、園芸にも今、力
を入れているところでございます。

○3番（島 和也議員）

町としても、いろいろな補助というか、形を取りながら、意識改革をされている
と思いますけれども、私が常日頃思っているのは、「園芸作物をしませんか」とか
呼びかけると、どうしても農家の方々は面倒くさい、手間がかかるからできない、
という声が多く聞こえるんです。それは多分、違うんじゃないかと思います。面倒
くさいから、やると収益も上がりますよということなので、ぜひその辺も、課長の
ほうもいろんな数ある会議の中でも呼びかけていただきたいなと思います。

それでは、同じ質問の内容なので、次の点に移りますけれども、先ほど町長のほう
で農業産出額が新聞とは違うよという形を言われて、令和5年は43億円ぐらい
あったという話をされました。

同じような内容に続きますけれども、園芸作物を生産することによって、本当に
私自身も実感はしているんですけれども、反収が上がる。はっきり言いまして、キ
ビの場合は現在も機械化農業になってまして、植えつけも機械、トラクターでやる。
収穫もハーベスターでやる。もう、ほぼ機械がないとできないという形です。

そういう機械でやるところに、1反2反ぐらいの畑にやると、手元に残らないの
が現実じゃないかと思っていますので、1筆ですね、畑の面積が3反以上とか、そ
ういう畑に大規模的に機械を入れていくのは、十分、私はいいと思います。

繰返しになりますけれども、自分のあたいばてのような園芸を推進していければ
と思っています。

それと、取り上げたのは、私がコピーした新聞のコピーなんですけれども、やっ
ぱり見比べると、和泊町、沖永良部の農業ですね。和泊町、知名町に関しまして、
天城町では、畜産とかキビに関しては、それなりの売上げが上がっていますけれど
も、ただ、和泊は昔から花町ということで、フリージアとかユリとか、そういうの
を出して行って、この数字が出ていると思います。花木だけでも26億2千万、天
城町は1千万ということです。

やっぱりこれには、この差は非常に大きいと思うんです。昔から、和泊は花の町、
花の島だということでやっていて、コツコツ、島民の方々が一生懸命畑に行かれて
の結果だと思いますけれども、今後、本当にこういう、和泊町、知名町に追いつけ
じゃないんですけれども、ただやっぱり、農家所得を上げるには、さっきから言い
ますけれども、私は園芸や作物だと思いますので、その辺に関して、課長、今後何

か考える方向性は見えませんか。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

1項目めの質問とも重なりますが、今、4次天城町農業ビジョン、第1回の策定委員会を8月4日に開催しております。

現在、各部会において、3次農業ビジョンの評価及び4次に向けての課題と課題解決に向けた施策、目標設定等を行っているところでございます。

年内に素案をまとめ、1月中の最終案作成に向けて取り組んでいるところでございます。

その中で、農業所得の向上についても、各部会等において、各品目の反収向上、増産、新品目の選定等を盛り込んでいければと考えております。

以上です。

○3番（島 和也議員）

農業ビジョンに向けていろいろやっていくのはいいと思いますけど、ただ、町長が先ほど言われましたトルコキギョウとか、どうしても施設園芸の作物なので、初期投資がすごくかかって、皆さん、踏み込めないというのがあると思うんです。やっぱり、私は露地栽培、露地でできる花とか、そういうのが島に合うような形があると思うので、その辺もちょっと、本当に研究して、花の島、沖永良部ですけども、花の島、徳之島、天城町と言われるぐらいの形も、今後持っていく方向性はできるんじゃないかと思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

それと、イモ類の件に関しましても、多分これ、ジャガイモだけではないと思うんですけども、天城町はジャガイモでイモ類となっていて、どうしても天城町が4億、和泊、知名が16億とかになっていますので、両町合わせても32億、33億ぐらいの形なんです。これって、何か原因が分かりますか、課長。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

現在、原因というのはちょっと把握はしていませんが、先ほどありました島農業復活プロジェクトの中で、現在、夏場の所得確保と圃場の効率活用ということで、サツマイモの栽培確立を目指して今、進めているところでございます。

植物免疫法上の関係で、沖縄に限定されますが、関係機関と連携を取りながら、販路の開拓を進めているところでございます。さらに、加工による県本土への出荷等の検討も進めております。

限られた農地ですので、輪作と反収向上が必須だと考えておりますので、サツマイモだけでなく、様々な品目で所得向上につながるよう、農政を進めてまいりたい

と考えております。

○3番（島 和也議員）

サツマイモに関しても、去年、おとしぐらいから始まった事業ですけれども、実際、見てみると、なかなか進んでいないのが現状なんですよね。

やっぱり、スピード感を持って、また、これを多くの方々に進めていくという、やっぱり夏場の作物なので、台風被害もなく、面積拡大もできると思いますので、ぜひその辺を本当に、今、現在、何名かピックアップしてそれを作っていただいているという形だと思いますけれども、それもやっぱり加工するなりの方向性とかですね。

沖縄だけの出荷だと量が限られてくるので、どうしてもやっぱり加工品に持っていけないと大量な出荷ができないと思いますので、その辺で、ぜひ2年目、次、3年目となりますので、来年度に向けてはもうちょっと拡大して農家を増やしていくとか、その方向性を考えて販路拡大、ここもやっていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それと、農業に関してなんですけれども、県では普及員というか、専門の方がおられます。その方が、あちこち圃場を回られて、いろいろ指導されていますけれども、私は天城町内にも、ぜひそういう専門職の方をやっていただけないかと。

例えば、会計年度任用職員制度、この辺を活用して、都会の専門の方をちょっとお呼びしたりとかして、多分、3年間はおられると思うので、その中でいろいろなことを継続的に指導していただけるような、町の方向性ができないものでしょうか。これは町長に聞いた方がいいのかな。

○森田 弘光町長

お答えいたします。

今、島議員のおっしゃっている専門的なところということで、私たち、そういったことについて非常に重要性を感じておりまして、採用職員、試験採用の中でも、いわゆる農業技師ということで採用して、そういう形で採用した方がこれまで3名いるんですけれども、そのうち今、2名が現役として、職員として勤めております。

これについて、なかなか現地に顔が見えないということにつきましては、また、もうちょっと外に出て、いろんな農家の方々の悩みとかいろんな思いを聞くということは大事ななと思っております。

また、そこら辺の中で、さらにマンパワーを必要とするのかどうかということについて、私はやっぱり農業というのは一番大事だと思っていますので、そこら辺についてはしっかり対応できればと思っています。

○3番（島 和也議員）

ぜひ、今、専門の方がおられるということなので、外、現場を見て、現場周りをして、極力農家の方々に指導、助言、その辺をしていただける体制をつくっていただきたいと思います。

J Aさんのほうにもそういう方がおられますけども、なかなか呼びかけないと来ないというのが現状なんで、そうじゃなくて、そういう方から直接、この方はこういうのをつくっているな、この方はこういうのをつくっているなという形で呼びかけて、面積拡大とかその辺の話もしていければ、いろんな方向性が見えてくると思いますのでよろしくお願いします。

町長が掲げる農業生産目標は45億ということで、和泊町に比べると、すごくまだまだ低いなという気持ちはありますけども、ただ、この中でどんどん進めていくことによって生産額も上がると思います。

それには、まずは農家の方々の意識改革と思うんです。先ほども私、言いましたが、園芸品目は面倒くさい、手間がかかるということを先に言われるんです。そうすると、次の話が前に進まないんで、できたら、やっぱりこういう意識改革をしていく手だてというのかな、そういうのを今後、考えていただきたいんです。

課長もなられてすぐですね、ちょっと難しいと思いますけども、何か、そういう農家の方々の意識改革、例えば和泊というか、沖縄の方々は、毎日ではないんですけど、自分の畑、職場ですよ。自分の職場に行く形が実際、できているんですよね。やっぱり、そういう意識改革、自分の畑にタイムカードを押しに行くんじゃないんですけども、そういう、自分の畑に毎日行くような意識改革をできるような皆さんの形を、何かお考えがあればお知らせください。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

例えば、農業祭だとか農業講演会だとかというのをこちらのほうで企画いたしまして、先進地、実際取り組んでいる農家だとか見識者をお呼びして、そういった情報発信等を進めていければと思っております。

○3番（島 和也議員）

ぜひ農家の方々と語って、本当に意識を変えない限り、天城町の農業は変わらないと思いますので、もう本当にそこを徹底してほしい。お願いしかないんですけども、農家の方と語っていただきたい。

先ほど言いましたけれども、1反10aの畑で、実エンドウだと、頑張れば約100万の収益を上げられるという作物ですので、これを2反、3反作れといっても、ちょっと人件費がかかったりいろいろしてできないんですけども、まずは、自分のあたいばての周りでやっていく農業をぜひ進めていっていただきたいと思いま

す。

それでは次に移ります。

先ほど、先進地視察ということで、国富町のほうに農政課とくらしと税務課で行かれたということですが、その後、2年たっても何も動きがないから、ちょっと私、取り上げたんですけども、あまりにもこの2年間、何をしていたのかなという意識があるんです。せっかく見に行っただったら、即、組織なんか立ち上げて、それでどんどんやっていってもらえたらなと思ったりしたんです。

それは置いておいて、この問題を取り上げたのは、先日、私たち建設経済産業常任委員会で、所管事務調査ということで、8月5日と6日に宮崎県小林市に出向いて、堆肥センターの視察に行ってきました。そこも、牛ふん、豚ふん、鶏ふんとプラスチック生ごみを入れた堆肥づくりの施設で、非常に感銘を受けました。

結構年月をかけてやってきているので、今、充実した形になっていますけども、当初はやっぱり、小林市主体で発足はしているんですけども、その後、いろんな問題を抱えながら、第三セクターという方式で今、運営しています。

そこで取れた良質な堆肥を農家の方に還元していると。1袋15kgだったかな、それもたしか400円ぐらいだったと思うんですけども、安価な形で農家に提供する。あとは、トラックで畑にばらまくとか、そういう堆肥をつくってやってもらえる。

農作物は地力というか、畑の地力を上げない限り、いい作物はできないんです。やっぱり、それには有機堆肥が一番肝心だと思います。これを推奨することによって、議会でもずっと取り上げていますけども化学肥料、高騰しています。それに助成ができないかという話もどんどんしますけども、いち早く、この有機肥料を畑にまくことによって、経費節減といいますか、化学肥料の節減もなると思うので、ぜひその辺をいち早く進めていきたいと思って、応援をするという形の質問ですのでよろしくお願いします。

それで、課長も代わられてあれなんですけど、もし、もう視察に行っこの2年間、何もできなかった、何か問題があったのかな。動きが何も見えてないんですけども。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

現在、進んでいないというか、堆肥センターの建設自体が今、上がってなくて、クリーンセンターの移設に伴う視察ということでしたので、今後、本町にクリーンセンターが移るまでに、今現在のクリーンセンターで約2千tのごみを削減しないといけないということもありますので、生ごみ等を利用して、堆肥化に向けて進め

ていきたいと思っております。

現在、J Aのほうで堆肥センターがございますが、J Aさんとも打合せを重ねて、その辺も進めていきたいと考えております。

○3番（島 和也議員）

課長のほうから、J Aさんがやっておられるということなんですけども、やっぱり良質な堆肥をつくるということでは、今、J Aさんのほうではサトウキビのバガスとか、あとは、私も詳しくはないので何を入れて加工しているのか、その辺はよく理解はしていないんですけども、私どもが一旦視察したところは、やっぱり牛ふんとか豚ふんはありますけど、でも、この島は牛ふんしかないです。この牛ふんを利用することによって、大規模畜産農家の方々のふんの処理、余剰ふんもあるかなということも思います。

だから、いち早く、組織づくりは大事だと思うんです。まずは組織をつくっていく方向、組織づくりをする。これが大事だと思いますので、畜産農家さんを含めた、ほかの農家も含めた形の取組ができないかなという思いがありますけど、どうですか。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

くらしと税務課等、また畜産、糖業、J Aさん等を含めまして、組織づくりに向けて進めてまいりたいと考えております。

○3番（島 和也議員）

一応、J Aの農協さんがやってらっしゃいますので、新たにつくるのか、そこを利用するのかという思いがありますけども、ただ、今の現状、農協さんがやっているとところは狭いです。私が見に行った小林のところは結構広い施設というか、1次発酵、2次発酵という、3次発酵まであったかな、結構長いレーンをつくってやっているんで、それなりの面積が必要なんです。

私がちょっと思っているのが、用地として、もし町のほうで取っていただけるなら、三京の牧場跡地、ここの活用はできないかなという思いもありますけども、いかがでしょうか。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

確かに、候補地の一つではあると思います。現在、飼料づくりというか、牛の飼料の夏場と冬場、今、牧草を植えて実証しているところでございます。その辺も含めて検討してまいりたいと考えております。

○3番（島 和也議員）

今、農政課の課長にもお伺いしているんですけども、くらしと税務課の生ごみ問題、これは非常に重要なことだと思うんです。要するに、焼却場に生ごみは持って行っても燃えないんですよ。その燃えないのが原因になって、機械の故障とか、いろいろあると思うんで、できたら水分を取った形の生ごみ、水分なくの生ごみを牛ふんなり、サトウキビのバガスなりを混ぜることによって、良質な有機肥料がつかれると思いますので、ぜひ、くらしと税務課の課長も、再度、先進地視察という形で行かれて、どういう形で収集しているのかとか、そういうのを再度、見ていただきたいんですけど、どうでしょうか。

○高 芳征くらしと税務課長

お答えいたします。

今、先ほど農政課長からもありましたとおり、ごみの減量化におきましては、生ごみは非常に重要な課題かと思っております。この減量化に向けて、こちらのほうとしても先進地視察のほうはしっかりとやっていきたいと考えております。

○3番（島 和也議員）

ぜひ、農政課と一体となって、やっぱりこの生ごみというのは何とかしないといけないと思いますので、そこを活用する。燃やすんじゃなくて活用するという方向性を考えて、それを活用して、堆肥に持って行って、農家に還元していくという方向性を持って進めていっていただきたいと思います。

それと、本当に近年、化学肥料も高騰して行って、農家の方々も高価というか、金額が上がってきて非常に大変だと思います。やっぱり、堆肥を推進することによって、少しでも農家の経営を圧迫しないようになると思いますのでよろしくお願いします。

まずは、町長に方向性で堆肥センター、細かく話があるんですけども、町長の考えをちょっとお伺いして、次に移ります。お願いします。

○森田 弘光町長

実は、国富町への職員の派遣というのは私の発想というか、私たち全国の町村が加入している全国町村会という組織がありまして、そこで町村週報という週刊誌といますか機関誌を出しているんですけども、その中で、国富町のSDGsへの取組ということで今、議論になっておりますその堆肥センターの取組のことが、その町村週報という機関誌に掲載されておりまして、これ、私たちの徳之島、また天城町の抱えている大きな課題であるということ。それから、いよいよこれからの、生ごみをごみとしてじゃなくて資源として活用していく、そういったことについて、宮崎県では既に取り組んでいるんだなということの思いの中で、職員の方々に、まずは取組を見てきてくださいというお願いをしてやったところであります。

今、島議員のおっしゃっているような課題というのは、これから私たち天城町がしっかりと克服していかないといけない課題でありますので、みんなの知恵を出しながらしっかりと取り組んでいくということ、そしてまた、令和17年から今、想定されておりますクリーンセンターが天城町への移設という中では、ここについてはまた、環境の問題からも避けては通れない課題かと思っております。

そういう農家の、農業の活性化、そしてまた、環境のきちんとした対応という両面から取り組んでいきたいというふうに考えております。

○3番（島 和也議員）

ぜひ、クリーンセンターも、天城町に何年か後には来るという方向性もありますし、やっぱり早期に堆肥センターを建設することによって、生ごみ処理という方向も、これを資源化できるという方向もありますので、それをするによって、他の2町に対するすごい刺激になると思うんです。徳之島一つで焼却していますので、その辺の問題も3町ともに取り上げていけると思うので、まずは天城町からどんどんそういう話を進めていって、リーダーシップを取ってやっていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、次に町内の樹木の管理についてですけれども、町長の話では、ちょっとバケット車は操作する資格とかいろいろあってハードルが高いということなんですけれども、去年も、議員と語る会の中でも、そういう伐採が何とかできないかという話も出たし、町長のほうでも、むーるし語ろう会の中でもそういう話がいっぱい出ていると、やはり必要性があるんですよ。

この必要性があることに対して、やはり前向きにやっていただきたいんですけれども、ハードルが高いから検討するではちょっと前に進まないんですけれども、これはどこにお答えを。

○榊 清次郎副町長

この町内の管理ができなくなっている高木、高い木ですね、この伐採等について、今年のむーるし語ろう会でも、ほぼ、ほとんどの集落で要望がございましたし、近年、こういった問題が課題となっております。

空き家の危険家屋と併せて、2つの大きな課題であると、町長とともに認識をしているところでございまして、これをこのまま後回しにするわけにはいけないのではないかと、私自身、感じております。

やはり、原則的に自治体においては、所有者が管理するのは基本でございしますが、やはりその高齢化等、または空き家になったり、管理ができないところも現実的にございます。それを行政が支援していくのも、行政の責務でないかと考えております。

また、今この場でこのような方法があるというのは即答はできないんですが、しっかりとこの問題を建設課だけじゃなく、天城町の行政サービスとして考えてまいりたいと思います。

○3番（島 和也議員）

ぜひ、やっぱり皆さん、困っていらっしゃいます。高いところに登るのは私も怖いし、伐採するのは怖いです。やっぱり転倒、落ちる可能性もありますので、ましては町内を見渡すと高齢の方が多いので、公道に木が出て、みんなに迷惑かけているなという意識があると思うんです。でも、できない。それを町にして何とかしてほしいという要望ですので、ぜひ検討するということなんですけれども、早急に刈っていただいて、資格を取るなら取るで、建設課のほうでされている方々もおられますので、その方々に資格を取らせるなり、いろいろな形があると思いますので、ぜひそれはやっていただきたい。

常日頃、思っているのが、民家もそうなんですけれども、A Y T、ユイの里テレビの電線ケーブルが非常にこう、木がかかっているんです。やっぱり、この島は台風が常習地帯ですので、事前にそれを伐採することによって線の断線とか、そういうのもなくなりますので、町民の方へのサービス、イコール公共施設の電線を守るという方向性もありますので、ぜひ本当に、前向きに検討していただきたいと思います。

それではまた、はいどうぞ。

○裊 清次郎副町長

先ほどの答弁にちょっと補足をさせてください。

今、島議員からもありましたように、A Y Tのケーブルにかかっている枝等については、管理者である町が処理すべきであると認識をしております。以前も、そのようにしていた経緯があります。

あと九電、N T T、いろんな線がありますが、それにつきましては、感電等の危険性もございますので、そういった箇所については九電、N T Tへの連絡でも結構ですが、役場へご相談いただければ、こちらのほうからまた、九電やN T Tのほうには要望したい。

これについても、台風災害時にそういった支障が出る箇所について、日頃から九電やN T Tとは協議をしておりますので、それ以外の部分について、新年度には町が直接、資格等を取得させた上で処理をするのか、または専門業者に委託をするのか、予算面も含めて、議員の皆様と議論を、来年度方向性を定めていきたいと考えております。

○3番（島 和也議員）

ある程度の高額な金額はすると思うんですけども、購入するに当たって、それほどハードルは高くないのかなと私は思っているんです。ぜひ、副町長が言いました九電やN T Tとのお話を進めているという話もありますけれども、自前を持っておけばいつでも走れるので、走って事前に危険箇所、ここが危ないなとか、断線しそうだとかいう場所を伐採することによって、町民からのテレビが映らないよとかそういう話も、電話もできないよとかいう話もありますので、できたら早急に、本当に前向きに、この問題は取り上げて議論していただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次に移ります。

行政について、ホームページの携帯L I N Eアプリ、これの件なんですけれども、まず、総務課長にお伺いします。これを導入する当たり、どれくらいのお金がかかりましたか。また、維持管理費も含めてお願いします。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

この公式L I N Eアプリの行政情報配信サービスにつきましては、令和6年度にデジタル田園都市国家構想交付金を活用して整備いたしました。その事業費ですが、総額で166万円でございます。2分の1が、先ほどの交付金ということでございます。

そして今、それは建設費が166万円、今現在、月額で8万2千500円の情報配信利用料ということで、これ東京の会社ですけれども、月額8万2千500円かかっているところでございます。

○3番（島 和也議員）

今、数字を聞いて、結構かかっているなと思ったんです。月8万も払っているということなんですけれども、私自身も、当然アプリを入れていまして、発信があるとき、見ているんですけども、町内におって、自宅とかにおっていると町内放送ですね、「今度、何々があります」とか、そういう放送は聞こえるんですけども、聞いて理解できるんですけど、そうじゃなくて、町外とか出張に行ったりとかしているときに、そういう放送があっても聞くことができない。でも、この携帯L I N Eアプリに情報が入ってくると、後で自分で見ることはできるんです。今度、こういうのがあるな、こういうのがあるんだなと。例えば今、何ですか、空き家の問題とかもL I N Eに入っていましたけど、やっぱり後で見ることはできるんです。

それで、総務課長にお伺いしますけれども、各課の発信が非常に少ないです。その辺、どうお考えですか。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

今後の公式LINEにつきましては、町のホームページの情報がこのLINEアプリのほうに配信される仕組みとなっております。

その中で、そのホームページを各課が作成する際に、作成した情報があるとして、それをLINEに配信という、またチェックというんですか、それをする事によって公式LINEのほうに配信されるという仕組みになっておりまして、ちょっとまだ、庁舎内でその辺の周知が行き届いてないかもしれませんので、その辺は、しっかりと必要な情報については公式LINEのほうに飛ばすというのを、再度しっかりと周知していきたいと思っております。

○議長（上岡 義茂議員）

しばらく休憩します。11時10分より再開します。

休憩 午前10時59分

再開 午前11時10分

○議長（上岡 義茂議員）

休憩前に引き続き会議を開きます。

島議員。

○3番（島 和也議員）

あと1点、このLINEアプリについて、ちょっと要請したいんですけども、私自身持っていて、入ってくる情報が少ないんですよ。やっぱり課長、各課の発信をということを言われたんで、いま一度、そのやっぱり活字になって残るっていうのは、やっぱり後で見れるんで、そこは本当に強く要請したいんですけどどうですか。各課の対応です。今後の。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

せっかく、公式LINEアプリ作っていますので、そのへんの情報の配信については多いほうがいいかと思っております。そういう中でも、一つだけ、先ほど言い忘れましたけれども、その受信する側の登録する画面の中に、特にどの情報について取得しますかっていう項目もありまして、その中で例えば暮らしですとか、ごみとか、そういった項目もございますので、そういったところを全てチェック入れておけば、全ての情報自分の端末に、スマホに流れてくるということになりますので、利用される方はぜひ自分が受信したい項目、分野、こういったものをしっかりと選択していただきたいと思っております。

また、ホームページでの配信については、極力いろんなイベントとか、いろんな

情報については流すように各課に指示しているところですが、その際にしっかりと、先ほど申しあげましたように、公式LINEにしっかりと反映されるような、そういった作業は行うようしっかりと徹底していきたいと思っております。

○3番（島 和也議員）

ぜひ、各課の対応、よろしく要請しておきます。

それでは、次の4番目のあまぎ自然と伝統文化体験館についてなんですけども、これ、提出した後に、ちょっと私自身も思ったんですけども、非常に闘牛場ということで衛生的に良くないんじゃないかという思いがありましたので、この質問はちょっと取りやめていきたいと思っておりますので、以前も社会教育課のほうには何かできないかという形の質問をしていますので、ぜひ、社会教育課のほうで今後、私も取り上げていきますから、出先機関その辺、課内の中で審議をされて、要請しておきます。

町長も掲げている、住んでよかった、暮らし満足度ナンバーワンのまちづくりですが、やっぱり子育て支援というのは、一番大事なことだと思うんですよ。やっぱりお子さんが家の中ばかりいたら大変だろうし、子育てする中でやっぱり外に連れ出したいというときに、天気が晴れで滑り台とか熱くてとか、あと雨風が強くて外で遊ばせないということもありますので、ぜひ、町長にはこの辺の方向性、今後の方向性、室内遊具という点について、何かやっていきたいというお考えはないでしょうか。

○森田 弘光町長

お答えいたします。

1回目の答弁の中でもお答えしたんですけど、やはり私たちこれからの時代を担っていくということの中で、どうやって子供たちを健やかに育てていくかっていうことについては、私たち今を生きる人間の大きな責務だと思っております。

そういう中で、その環境整備、そしてまた、特に今のように危険な暑さ、また雨天時、そういったときに、子供たちの遊ぶ場所というものについては、島議員がこれまでも何回かご質問があったというふうに認識をしておりますので、それについて、まだはっきりとした結論が出ていないんですけども、これは大きな課題だというふうに私たち捉えておりまして、そこについてどのような手だてができるかということについては、またしっかりと考えていきたいというふうに思っております。まだ、しっかりとした答えが出てないということについては、残念なところでもあるということでございます。

○3番（島 和也議員）

要望しているのは、お金がかかることなんで、早々にはできないこともあると思

いますが、ぜひ前向きに、やっぱりこの天城町に住んでよかったという方々が増えるような方向性を持っていていただきたい。

天城町は、別の面で行くと支援を持っています、屋外の遊具に関しては非常に充実した形で、取りあえず中央から北部方面になっているんですけども、やっぱり休日とか見ると、町内も多いんですが隣の町、二町からも、結構子供さんを連れて来られていますので、やっぱり天城町に行きたいという方もおられます。そういうのを見ているので、今度はその中に屋内でも遊べる施設があるよっていうことをやっていくと、もっともっと天城町にも来られる方が多くなりますので、ぜひ検討していただきたいと思いますので、お願いいたします。

それと関連して、体験館についてなんですけども、8月末までにネーミング募集をしていました。その状況について、お願いできますか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

今、島議員がご質問のとおり、愛称募集を各集落さんのほうにお願いして、今、回収をしております。既に、回収はもう終了しておりまして、今月中に審査会になるものを開催しまして、決定していきたいと思っております。

○3番（島 和也議員）

いろんなご意見があって、いろんな名前が出てきておりますので、どういう名前なのか楽しみにしておりますので、愛称、親しみやすい名前をつけていただければと思います。私個人的には、天城交流館がいいんじゃないかなという思いもありますけども、それもまた参考をお願いいたします。

それでは、農産物販売所に向けての話ですけれども、答弁の中に空の駅のほうで主体的にされるということですけども、これはもうちょっと規模、そこの働いている方々をちょっと募集してやられるという方向ですか。お願いいたします。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

現在、空の駅でやっております運営母体を基礎にいたしまして、その中でまた募集をかけて、人員の増加や農産物、取扱商品等の募集等も行っていく予定としております。

○3番（島 和也議員）

ぜひ、主体となる母体があれば、自然と人が集まってきますので、私も事あるごとに皆さん、先ほども言いましたあたいばで野菜を作りましょうって、そうして売れるところありますよという話をしていますので、ぜひもうちょっと幅を広げていって、お話し合いをされて、家庭菜園されとる方もいっぱいおられます。それを

出荷するとお金になるよという話もできますので、そういう方々を増やしていけるような取組を今後やっていただけたらいいと思います。

それと次に、体験館を含めて民営化できないかという話なんですけども、直売場に関しては空の駅さんを中心にやるということで、あと、うおっちょと山猪工房、この2つの件なんですけども、長年、町としていい施設だと思います。イノシシの駆除という目的に対して作った猪工房、あと魚を販売することによって、それを出荷できることができますよということで、非常に中身もいいと思うんですけども、ただ非常に、見てみると赤字続きなのかなという思いがありますけども、うおっちょと山猪工房含めてなんですけども、現在、どういう状況で推移しているのか、具体的なことまで問いませんけども、大体の流れとしてやっぱり赤字なのかなということでごちゃっとお聞きします。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

山猪工房につきましては、イノシシの捕獲多数は年々徐々に増えてきております。しかしながら、人件費等を含めると赤字状態がついているという状況でございます。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

うおっちょにつきましては、令和6年度、稼働して今2年、今年度3年目なんですけども、令和6年度につきましては、売上げにつきましては前年度より大幅に上回りました。しかしながら、農政課長と同じなんですけども、人件費と昨年は物価高騰で米等が倍近くの価格になりましたので、その辺りの部分がちょっと増えまして関係で、引き続き赤字という状態にはなっております。

○3番（島 和也議員）

公共の施設ってということで、赤字もありかなという思いはありますけども、でも赤字では駄目なんです。やっぱり、せっかく作った建物ですし、やっぱり町民にいろいろ提供するところであれば、町の財源も圧迫しますので、赤字ですと。やっぱり売上げを上げていって、健全運営ができるという方向性を考えると、やっぱり民営化のほうが私はいいんじゃないかと思います。

2つ一緒にやるというのも、またハードル高いと思いますので、1ヶ所ずつ募集をかけていって、民営化にすることによって、中の職員の意識も変わってきます。はっきり言って自分たちの、変な話ですけど、給料は自分たちで稼がなきゃいけないという意識改革をすることによって、いろんなアイデアも出てくると思うんですよ。そこを考えていければ売上げが、黒字にせいって話じゃないんですけども、

その赤字を少しでも少なくやっていけるんじゃないかと思います。

やっぱり町としては、せっかく作ったものですし、町民にもいろんな還元をしていかなきゃならないということでやっている建物ですので、ぜひ末永くやっていけるように努力を、それにはやっぱり民営化だと私は思いますので、ぜひその方向性を持ちながらやっていただきたいと思いますので、強く要請しておきます。

それで私のほうでは、質問終わりますけども、町長がいう住んでよかった、暮らし満足度ナンバーワンのまちづくり、これを徹底して、農業の話とか、いろいろ子育ての話とかしてきましたけども、やっぱり一つの、前向きに町民サービス、住民サービス、この辺を徹底していただいて、快適な天城町づくりができるように要請して、私の一般質問を終わります。

以上です。

○議長（上岡 義茂議員）

以上で、島和也議員の一般質問を終わります。

次に、議席番号10番、柏木辰二議員の一般質問を許します。

○10番（柏木 辰二議員）

通告してある1回目の質問を行います。

町政運営について、1点目、瀬滝から秋利神に向かう旧県道沿い一帯に計画されているリゾートホテルに伴う町当局の対応には、様々な疑念や今後において懸念があるが、町としてどのように考えているのか。

2点目、天城町では、自衛隊誘致を推進しているが、考えている候補地はあるのか。

以上、1項目2点について明確な答弁を求めます。

○議長（上岡 義茂議員）

ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

○森田 弘光町長

それでは、柏木議員のご質問につきましてお答えいたします。

1項目め、町政運営についてということでございますが、その1、瀬滝から秋利神に向かう旧県道沿い一帯に計画されているリゾートホテル建設に伴う町当局の対応には様々な疑念や懸念があるが、町としてどのように考えているかということでございます。

お答えいたします。

ご指摘のリゾートホテル計画につきましては、今年、令和7年3月18日、19日にかけて、町執行部及び天城町議会議員の皆様に対して、企業側から説明を受けたところでございます。

天城町といたしましては、このリゾートホテル計画が、今後実施されることにより、南部地区の振興、また、地元人材の雇用、また、地場産食材の活用、観光客の増加など、地域の活性化につながるというふうに、現在考えているところでございます。

町政運営について、その２、天城町では自衛隊誘致を推進しているが、考えている候補地はあるのかということでございます。

お答えいたします。

皆様方ご承知のとおり、天城町では平成２６年度に設立されました天城町自衛隊誘致協議会を中心に、自衛隊の誘致に取り組んでいるところでございます。

平成２６年４月に、当時の自民党幹事長がご来島しましたが、その際に提出いたしました要望書の中では、国有地を提示したことはございますが、現在のところ具体的に私どものほうから候補地としている土地につきましてはございません。

以上２点につきまして、柏木議員のご質問にお答えいたしました。

○１０番（柏木 辰二議員）

質問に入る前に、まず、この質問の中で私の言い方が少し、もしかしたらこの元の所有者だったり、そういった関連の方に誤解があるかもしれませんが、決して私はその元の土地の所有者、その方たちを批判するものでもないし、一切ありませんし、その点だけは理解していただいて、これから質問に入ります。むしろ、私はそういった方たちの側に立って、立ち位置はその方たちの立ち位置に立って質問をしていきますので。

まず、皆様、今回、私が質問の対象にするのは、ほとんど総務課長だったり、副町長だったり、町長、この３名に限られてくるかと思いますが、それで、皆様に事前に私が時系列で調べた、私が私なりに、これはいろんな過去の一般質問だったり、そういった中から、この所有地の払下げに関わる経緯として、時系列でまとめてみました。

まず、①ですね。１点目、令和５年８月に総務課長、今の副町長、福企画財政課長、今、総務課長、中商工水産課長、現社会教育課長が、このリゾート開発に関係する人たちによるバーベキューに参加したと。

これは、令和７年の第２回定例会において、久田議員の一般質問の中で答弁しています。これは、この答弁された方、これに間違いはないでしょうか。

○裊 清次郎副町長

私のほうで答弁をいたしました。

令和５年８月１７日の夕方でありました。この主催は、島内の企業でございました。そこからの依頼ということでありました。

そこで、私のほうでは、企業誘致の観点から、先ほど町長の答弁にもございましたが、町内に企業が進出することで、地元雇用の創出であったり、また固定資産税、法人税、税収等の増に関わるもの、または地域振興、観光振興に係る、そういった総合的なところから、その現場のほうには参加をしました。参加時間については、短い時間であったと記憶しております。

○10番（柏木 辰二議員）

確かに、今、副町長が言われた説明の中が、質問の中で述べられています。

私は、2点目の自衛隊施設誘致にも関わりますけども、今、副町長が言われた天城町のメリットっていわれる部分だと思いますけども、それは自衛隊誘致が一番、それで全て私は、観光は別にしても、そういった意味ではクリアできるものだと思います。それ以上の自衛隊誘致に関しては、ものがあり得ると私は思っています。

最初に聞けばよかったんですが、そのバーベキューに参加したのは、この天城町の議会議員の中にもいらっしゃいますか。

○禰 清次郎副町長

私どもが参加した令和5年8月17日にはおりません。

○10番（柏木 辰二議員）

②ですね、令和6年4月、不動産企業からリゾート開発を目的として、町有地払下げについての相談を受ける。これは一緒、久田議員の6月11日第2回定例会の町長の1回目の答弁です。町長、これは間違いないですね。6年4月。

○森田 弘光町長

お答えいたします。

柏木議員からは、今朝、私の机の上に時系列でできております。私の中では複数回、不動産企業の方々から、南部地区でリゾート開発をしたいという相談がございました。その中に、町有地が含まれているということ等についてもお話を伺っております。この令和6年4月ということですので、そのほか複数回、私はそういう相談は受けているというふうに認識をしております。

ただ、今日、こうやって令和6年4月、間違いないかというと、少し私の中では心もとないところがあるんですけども、これまで複数回相談を受けているということでもあります。

○10番（柏木 辰二議員）

5年の8月というと、2年前ですね。2年前に、先ほど副町長の答弁がありました。が、当時こういったリゾート開発の話があったので、前回の答弁、その6月11日の久田議員に対する答弁で、当時このようなリゾート計画であるから、話が

あるから、そういった話が島内企業からあって、町行政のほうにも会っていただきたいという依頼で行ったということは、2年前にこの話を、例えば町有地がここにありますが、そこも使います、そういった話があったかということです。そこが一番大事なところですよ。

○裨 清次郎副町長

2年前ということですが、その時点でリゾート開発、この今言われている企業ではございませんでしたが、島内の企業から、今言われている当該地での、そういったリゾート開発の相談はあったと記憶しております。

あとは、その時、この時点では、現在民有地である箇所のためのリゾート開発ということで、私どもは話を聞いておりました。町有地という話は、それから後に出てきた話でございます。

○10番（柏木 辰二議員）

じゃあ、総務課長のほうから伺いますね。そういった道路挟んで東側、町有地を含むあの一帯を、またリゾート開発として計画があるという話は、いつ頃聞いたんですか。いつに聞いたんですか。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

先ほどの町長が、先ほどの令和6年4月になるんですけれども、令和6年4月8日に、うちの財産管理係のほうに、その町有地の払下げについての相談を受けたという記録は残っております

○10番（柏木 辰二議員）

いや、その中で、結局3月18日ですか、その企業側から来て説明会ありましたね。そのときに、大まかなそういった計画を聞いているかということです。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

そのリゾート計画のその概要については、私どもも、その令和7年の3月の向こうからの説明時に、そういったものを初めて見たところでございます。

○10番（柏木 辰二議員）

結局、大体、まずこれで時系列で追っていくと、なおさら私はこの疑念と最初に言いましたけども、違和感感じたり、おかしいところがあるわけですね。

次、行きますね。例えば6年5月22日に、私たち全議員、町長含む、企画財政課長も含んで、防衛省のほうに出向いて、自衛隊誘致のこれ今陳情と書いています要請をいたしました。私は、例えばこの土地、そういった話があって、そういつて進んでいくんだと、これ、民有地別ですよ。町有地も含んだ、そういった計画があ

るという情報があれば、私だったら行っていないです。個人的には。

言っている意味分かりますか。理解できています。じゃあ、聞きますよ。以前、この民有地のことあまり、もう売却されたその土地のことあまり言ってもおかしくなりますが、この土地は、以前、何年か前に自衛隊の訓練もしているんじゃないですか。どうですか。

○森田 弘光町長

5月22日に、議員の皆さん方全員と私ども、防衛省に伺いました。そのときに、いわゆる決め打ちという形で、今のリゾート計画をされている場所について、そのような決め打ちっていいですか、その場所を自衛隊誘致の、自衛隊の用地として私たちは防衛省のほうにお願いしたということではなくて、私ども、天城町全体としての、またそこは自衛隊の皆さん方の、またいろんな判断のあるところだと思っていますので、そのように私どもが何か二股をかけたような感じ、そういったことについては、ちょっと話が違うんじゃないかと私は考えております。

○10番（柏木 辰二議員）

町長、決して、そういうこと言っていないよ。

結局、過去にそういった訓練も行われて、確か下のほうから上陸作戦みたいな、そういった訓練もされたと私は記憶していますけども、そして、そこは不発弾の処理のそういった場所でもあったはずですよ。（発言する者多し）いいですか。あったはずですよ。あったと私は記憶していますよ。（発言する者多し）不発弾の処理の場所でもあったんじゃないかと思います。思いますけど、それを多分調べてくださいね。

ちょっと、横の人、ちょっといろいろ言わないで、うるさいから。話ができなくなる。（発言する者多し）言っていないですよ。じゃあ、確認してくださいね。

○福 健吉郎総務課長

先ほど、議員が自衛隊が過去に使用したんじゃないかっていうその町有地に関して、ちょっと私のほうでは、そういったちょっと記憶はなくて、水陸機動団がその秋利神、（発言する者多し）そうですね。徳之島で開催したということでございましたが、その町有地をちょっと利用したっていうのは、私の記憶の中にはございません。

○10番（柏木 辰二議員）

町有地じゃなくて、その民有地ですよ。確かあったんですよ。町有地って、決して誰も言っていないからね。

結局、こういった話が例えば持ちかけられたときに、なぜ先に自衛隊誘致を推進しているこの天城町が、まずそこが最適地じゃないかとか、そういうふうを考えな

かったんでしょかね。それがまた広がってきて、町有地含んだあの一带までそういう計画、なおさら、私は将来考えた時に、少し不安を覚えています。言っている意味分かりますか。そういうことですよ。

じゃあ、ちょっと、次、進めながら、後でまた言います。

4番目の令和6年6月27日、町有地払下げ、貸付等審議委員会が開かれています。そのときに副町長の、これは令和6年第4回定例会12月6日、私の一般質問の中で、福総務課長が答弁しています。半年以上前から、払下げに関する方々が相談に来ているので、今後、払下げ申請が出てくる予定があると審議委員に報告したと、これ間違いないですね。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

第2回の審議会ですよね。9月30日開催の。（発言する者多し）ごめんなさい、6月27日は、ちょっと審議の議題には挙げておりませんでした。そういった情報は、今後、出てくるであろうということでお伝えはしております。

しかし、ちょっと半年前ってというのが、若干、ちょっと今、自分の中で、先ほど6年の4月って、初めてその情報が財産管理に来たのが6年の4月の8日でございました。ですので、ちょっと当時の私の言い間違いだったのか、半年前って言ったかどうかは、ちょっと記憶は定かではないんですけども、その1回目の6月27日の審議委員会の中では、今後、そういった払下げの申請がなされますよってという情報は、委員の方々に伝えたところでございます。

○10番（柏木 辰二議員）

私も、半年以上前からというのが、ここが気になっていたんですよ。これが半年前だったら、この時点の半年前でしたら、もう12月か、年内の話になるわけですよ。

5年の8月17日、2年前にこのバーベキューに参加したとき、そういった話も聞いているんじゃないかというふうに考えたわけですね。はい、それでいいです。

そして、5番目、⑤令和6年8月21日に、この件の町有地の測量業務委託の見積書を受理していますね。

そして、6番目、令和6年9月6日、第3回定例会で、平岡議員がこの件を一般質問しています。このときに私は初めて、これ私だけの話をします。私は初めてこの件を知ったわけですね。分かります。知ったわけですよ。

そのときに、総務課長と議員の一般質問のやり取りの中で、すごい違和感を感じたんですね。この質問、ちゃんとしっかり、ここで読み上げませんけど、しっかり読んでくださいね。自分の言った答弁を。あまりにも、いかにも打ち合わせをした

ような、できすぎた答弁のやり取りだったんですよ。記憶ないですか。その後、議会終了後に、私、少し総務課長に一言申出てというか、この議会は何だと、できすぎて、そのやり取りおかしいぞとそういう話もしたことがありますよ。

ここはそういうことで、こういうことからすると、こういった見方もできるわけですよ。

6月27日に、払下げ審議委員会で、この情報を審議委員の方に情報を提供して、8月の21日に見積書を受理しました。そして、この町有地払下げが、いかにも天城町にとって将来良くなるとか、そういった考えを引き出したい、そういったことをそちら側から依頼したとも取れるわけですよ。どうなんですか。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

天城町の町有地払下げ、貸付等審議委員会の中の委員として、議員の方が3名入っております。ですので、先ほど申し上げましたその審議会の6月の27日、その時も議員の方々もその委員会に参加しておりますので、そういった経緯はあつての、その一般質問につながるものかなというふうに、今感じているところです。

○10番（柏木 辰二議員）

この件、もう5千m²以上は、議会の議決いらないとか、それは分かっていますよね。もちろん分かっていますよね。そういった、例えば、情報は私たち議会にはその情報提供ありませんでした。議会に対する説明はありませんでした。審議委員会、それはそれでいいですよ。議会で初めて、こんなことが分かる。私が違和感を覚える。ここはこれぐらいにしておきますね。そういった経緯が、不信感というか、疑念が生まれるわけですよ。

そして、その後、定例会の後に、7番目、令和6年9月19日に町有地払下げ、貸付申請書を受付けています。

受け付けました。そして、8番目、令和6年9月30日に町有地払下げ、貸付等審議委員会が補留になっていますね。資料請求をもらいましたけど、継続審議になっています。この理由は、もう一度、答弁にありますけど、総務課長の方から説明を。

○福 健吉郎総務課長

そのときの案件として、その分も含めて3件の議題がございました。2件については、承認ということで終わったんですけれども、その当該地の分については保留扱いということで、その審議委員会のほうでは保留という形をとっております。

ちょっとすみません、今ちょっと手元に資料がなくて、確実な何か理由についてちょっと申し上げたかったところなんですけれども、手元にちょっと資料がございませ

るので申し訳ないです。

○10番（柏木 辰二議員）

たしかその土地は県道、旧県道ですね、県道ができたときに、分筆がされていないで、その分筆を終了して地籍を確定してからするべきだというふうな理由だったと思いますけど、どうですか。

○福 健吉郎総務課長

申し訳ありませんでした。手元にありました。当該用地につきましては、まだ、字図との照合とかがまだ確定できていなくて、また、その面積等も未確定であるということと、当時の旧県道を挟んで同じ地番で両サイドに、旧県道を挟んで両サイドにあるということ等から、その辺をしっかりと整理した上で、また再度審議したいということで保留にしたかと思っております。

○10番（柏木 辰二議員）

その審議委員会ですけれども、口頭だけの説明だったのか、例えば現地に行って現地確認したのか、普通やりますよね。現地確認しましたか。それか、航空写真なり、そこで場所を確定して、この場所を説明して、そうですよとか、役場にある字図でこの場所ですよとか、多分そういうことをやると思うんですよ。それ、やっています。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

全ての案件について、字図と航空写真、こういったものは準備して、委員の方々に提示しながら審議を行っております。また、現地に赴いてということはございませんでした。

○10番（柏木 辰二議員）

この部分で聞こうかな。昼休憩に入る前に、前にもってここを聞いておきますね。もし、調べる時間があるかもしれませんから。

その字図、私も課のほうで字図を一応取って確認しました。そして、2点気になる場所があるんですけども、これ、今手元になれば、昼にこの字図を取られて、今から言う地番、ここの件について回答ください。

まず、1503の1、そして1514、この2件です。この土地の所有者と現所有者と、分かると思います。面積、地目、これ、後あの昼時間でも調べてください。手元にあれば、説明して欲しいんですけども、どうでしょうか。

○福 健吉郎総務課長

お答えします。

今、手元にございませんで、昼休憩時間挟んで調べておきたいと思います。

○10番（柏木 辰二議員）

ちょっと、この経緯のほうを先に済ましておきます。

9番目、令和6年10月11日、議会全員協議会がありました。払下げ申請についての状況報告です。そのときの説明資料では、そのときに議員側からもいろんな意見が出まして、いろんな、10項目の意見が出ました。

10番目、令和6年の10月18日、地元不動産会社を通して、町有地払下げ申請について取り下げたいと連絡が入ったとありますね。その受け答えの中で、まずその申請書を出された会社、そこに文書として回答、回答依頼を送付するので文書にて回答を提出するようその方に伝えたと、まずこの文書の回答はいただけたんでしょうか。

○福 健吉郎総務課長

ごめんなさい。それにつきましても、ちょっと確認させてください。今、ちょっとこちらのほうでは、まず10項目について問合せをしたってところまでは明確に覚えています、向こうから、しっかりと文書での回答っていうのが、ちょっと今はっきりとお答えできないので、また確認してからお答えしたいと思います。

○10番（柏木 辰二議員）

その部分も疑念になるわけですね。結局、この中でも出ましたペーパーカンパニーとか、全く違う会社からの申請であります。そこに文書の回答を依頼しました。それも多分来ていないんじゃないでしょうかね。そういったことも含めて、さらに不審感を持つとそういったことになると思います。

その次、正式に出たのが、令和6年11月の18日、取下書を受理。役場は受理しています。

その後、結構、期間を要しまして、12番の令和7年3月19日に議会全員協議会、リゾート企業によるホテル建設の計画説明がありました。

この中で、いろんな何名かの、そういった質問だとか意見がありましたが、私はこの中で、この場所は、私個人的に考えたら、東シナ海を臨む、国家安全保障の観点から防衛のためには絶対必要な場所だと、自衛隊関連施設には最適だとそういうふうに考えている、こういった、言った言葉と全く一致はしていないかもしれませんが、そのようなことを言いました。

そして、今、皆さん、町長はそういったリゾートとか、きれいな言葉で、そういう認識あるかもしれませんが、私にとっては、そこは東シナ海を臨む、天気のいい日には沖永良部島、大山航空自衛隊ですか、その基地がある大山もしっかりくつきり見えますね。

私たち、この天城町は、特に天城町と伊仙町、特に天城町だと思います。こういった海岸地帯の、海岸線の重要なポイントを持っている天城町だと思っています。そして、その天城町は、秋利神はある程度の東風、強い東風があっても上陸できる場所だと、ボートによっても上陸できる、そういった場所なんですね。そういった場所に、そういった施設ができてしまうと、今後の防衛上というか、国防、そういったことに私は懸念がありますと、そういったことを言いました。その回答はあえてもらっていませんが、そういうことを言いました。そういう経緯もあります。

その後、13番目、令和7年6月10日に、第2回定例会で私がこの件に質問し、次の翌日の11日に、久田議員がこの件についても一般質問しています。ということで、一応経緯についてはこういった感じの流れを聞きましたけども、午後からまたほかの詳しく聞いていきたいと思っています。

○議長（上岡 義茂議員）

しばらく休憩します。1時から再開をいたします。

休憩 午後 0時01分

再開 午後 1時00分

○議長（上岡 義茂議員）

休憩前に引き続き会議を開きます。

福総務課長。

○福 健吉郎総務課長

午前中に、議員のほうから質問を受けておりましたので、回答させていただきます。

まず、6年の10月17日に、議会の全員協議会が持たれて、その状況を報告させていただきました。そのときに10項目ほど、いろんな指摘事項、また質問事項がございました。そのことについて、地元の企業を通じまして、相手方にも内容を伝えて、文書で回答を求めたところだったんですけども、結果的には、文書回答はございませんでした。

ただ、6年の10月18日に、地元企業を通じて、今回の申請は取り下げていただきたいという連絡がございました。

その後、受信したのは6年の11月18日ですが、正式な文書での取下げ文書が受理されたというところでございます。

それと、地目・地盤についてです。瀬滝木岳1503—1、これは、所有者は天城町、地目は原野、あと、地積が1万3千385m²です。

もう一つの地番です。瀬滝木岳1514、所有者は大蔵省、地目が雑種地、面積

が808m²となっております。

○10番（柏木 辰二議員）

10月18日の回答をもらえていないというわけですが、これ、その方を介して回答をもらうこともおかしいですし、直接そちらに電話をかけて「文書を送りました、回答してください」というのが普通でありますし、その辺についても、まさに、ここはおかしなところ、そこも気づけない総務課長だったり執行部ですね、私は全く用を成していないと思います。

そして、今の1503-1と1514にありましたが、天城町と大蔵省ですか、面積言ってもらえましたっけ、言った、はい。じゃあ、この場所、特定できます、場所は。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

この場所については、字図と、今、現況の航空写真等を照らし合わせて、ちょうど、今問題になっている町有地の、これ右側、東側っていうんですかね、のほうにその町有地1万3千m²余りがございます。その南側に、恐らく風葬跡地かというふうに考えておりますが、そこが大蔵省の所有する場所ではないかなというふうに認識しております。

○10番（柏木 辰二議員）

雑種地は風葬跡ですね、昔ありました、私も知っていますけど。分かりました。

じゃ、気になるのが、この天城町の土地ですね、今回、私下申請が行われている町有地、その面積より大きいです。多分、右側のほうに行けば、山腹というか、そういった、含まれてくると思いますが、今言われたように、町有地と隣接しますね、この私下げの、今言われた1494-39、今回取り上げているという説明でしたが、これは、先ほども聞いてますが、私下委員会で、この字図を見て、航空写真を見て、現地を見て、確認して、そういったことも行われたのかって、もう一回、再度お聞きします。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

先ほどの答弁と一緒にすけれども、その航空写真と字図は審議委員会の中で提示いたしました。

ただ、現地に行つての現地確認はいたしておりません。

○10番（柏木 辰二議員）

今回、この対象になっている町有地だけ、測量に約300万円、それをかけて今、測量をやっていますね。なぜ、そこだけをしなきゃいけないんでしょうかね。当然、

天城町の土地であろうが、そこの中に、字図の中、場所は、あくまでも字図ですから、そこの中に今回売却されている土地もありますよね。ここだけ、今、払下申請が上がっている町有地だけの測量でいいんでしょうかね。私は違うと思いますよ。この一帯こそ、全部含めた、道路の東側一帯を含めた地積測量を行って、境界、地積を確定しなきゃいけない場所じゃないんですか、どうですか。

○福 健吉郎総務課長

字図上で、今、払下げに、先ほど来ある土地、町有地と、先ほど申し上げました1503—1番地、ここは、里道で分離されている形となっております、今回、その払下げの該当地ということで今、今回その部分についてのみ測量を入れているというところです。

○10番（柏木 辰二議員）

それ、説明になっていないんですね。隣接しているわけですよ。隣接していて、今回、個人からリゾートのほうに、リゾート会社のほうに売却された土地も入っていますね。字図ですから、絵的には。そういった含んでいる土地、なぜ、そこを地積確定しないんでしょうかね。そこが、これも今回の疑念なんです。どうですか。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

取りあえず、今までの考え方としましては、この1503—1というのと明らかに地番が違うというところで、当該、今、現行走らせている測量の場所として、今やっているところなんですけれども、ちょっと議員がおっしゃるところも含めて、ちょっと即答はしかねますが、ちょっと検討させてください。

○10番（柏木 辰二議員）

少しきつい言い方しますが、払下委員会どうなっているんですか。これは、委員を責めているわけじゃないです。行政側ですね。だから、最初から時系列で追ったときに、明らかに、既にこの情報をもらって、町有地の払下げもある可能性もありますから、よろしくお願いしますと、そういうふうな話があって、ここに来ていますね。おかしくないですか。どう考えてもおかしいですよ。ちょっと、それを今、検討ではなくて、ここを再度、全部測量をかけて、地積を確定してから動く場所だと私は思いますけど、どうでしょうか。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

その1503—1という、今、字図上で見ると、かなり、中に幾つかいろんな方の民有地もございます。それを全体となると、かなり広範囲にわたるということもありますので、ちょっとその辺を測量を入れて境界の、境界立合いとかしますとか

なりの時間もかかりますし……。ちょっと今、ちょっと休憩よろしいでしょうか。

○議長（上岡 義茂議員）

しばらく休憩します。

休憩 午後 1 時 1 0 分

再開 午後 1 時 1 6 分

○議長（上岡 義茂議員）

休憩前に引き続き会議を開きます。

福総務課長。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

今現在、払下げの出てくるであろう町有地のみ測量を入れていたところですが、隣接にも天城町の町有地があるということでございますので、いずれにしても、普通財産の管理という観点から、測量は入れるべきであろうという感がいたしますので、その部分も併せて測量する方向で進めてまいりたいというふうに考えております。

○10番（柏木 辰二議員）

この部分というか、その一帯ですね、一帯全体の、できたら地積を確定して、そこから物事をまた進めてもらいたいと思います。

次、まず、令和7年の3月19日に全員協議会がありまして、リゾート企業によるホテル建設の施設計画説明がありました。その中で、もう見るからに感じた疑問点ですね。まず、今回、町有地払下対象になっているその土地、含めた土地一帯の開発として、青焼きがありまして、その中にヴィラ14棟、このヴィラって、この解釈、総務課長、誰か、このヴィラって、意味はどういう意味ですか。

○福 健吉郎総務課長

ヴィラ、一般的にコテージ風の建物であるというふうに考えております。

○10番（柏木 辰二議員）

それも間違いではないんですけどね。辞典を引けば、大別荘、大きな別荘ですね。町長が前から言われている富裕層のためのこのリゾートですよ、ここ。ということは、この14棟の大きな別荘、これを、この中の説明では、売却をして、使わない時期の管理、それも下のほうに造るホテルのそこの運営資金として使いますという説明がありましたけども、ここ、なぜ14棟の別荘を建てて、売却して、ということとは売却するということです。ということは、一棟一棟が別の人の名義になるということです。その前にもありましたね。目的外に使用する、目的のときには契約

書の中で買い戻す、そういった結果、できないわけですよ。転売、転売でいけば、もうそんな悲しい、以前の話。

そして、私が先ほどからここで、この説明の中でちょっと意見を言った防衛の件ですね。ここに14棟の別荘ができます。将来的に考えて、この別荘に今、北海道とかリゾートホテル、そこに、はっきり言いましょうね、中国人がそこに別荘に全部入ってきて、一般の人は入れない、そういった危険性もはらんでいる場所があります。全く一緒の可能性は出てくるわけですね。その辺の防衛関連施設は計画はない。ここが、私が見るからに一番最適じゃないですか。そういった場所を、そういったリゾート開発、美しいことをね、そういったものに誘導されて、行政側がそこにてこ入れする、手助けする、加担する、バーベキューのセット、セット幾らだったらまだいいですよ。ここに金品とかね、お金だけじゃないですよ、それ相当の品物が動いたとしたら、収賄にもなるわけですよ。そんな危険性もあるわけですよ、実際。そんなことも分からない、この行政どうなっているんですかね。そこは、私は言いたいわけ。これ、危険性ないと、そういった認識は、あなた方執行部はないんですか、3名、ちょっとお聞きします。

○裨 清次郎副町長

さきの定例会本会議でも答弁しましたが、町有財産を払下げする場合には、しっかりとその対応しなければならないという認識は持っております。そういった中で、転売であるとか、そういった当初の目的外使用に当たる場合には、払戻し条項というのをしっかりと当初の段階で個々に転売などできないような契約をしなければならないと考えております。

○10番（柏木 辰二議員）

副町長、勘違いしないでくださいね。説明会の中で、転売すると言っていますよ、売却する。14棟の別荘ですね、ヴィラといたら、建てて、それを売却して、その別荘を使用しない時期は、時期全体を含めてか、それはちょっと分かりませんが、それを管理する、そういった、そこで得る収入もホテルの運営資金として使います、しっかり言っていますよね。言っていますよ。

○議長（上岡 義茂議員）

しばらく休憩します。

休憩 午後 1時23分

再開 午後 1時27分

○議長（上岡 義茂議員）

休憩前に続き会議を開きます。

埤副町長。

○埤 清次郎副町長

失礼いたしました。リゾート開発をする申請先の企業と再度確認をした上で、また、先ほどからご質問のある当該地の町有地、また、近くにある町有地等、開発計画にあるところの境界確定を、これは時間がかかるかもしれません。しかしながら、そういったことを進めながら、また議会の皆様と情報を共有して進めていけたらと思います。

○10番（柏木 辰二議員）

冒頭で、私、この質問をする前に、民間の元所有者、そこを批判するつもりもないし、一切ないしというのを冒頭で言っていますね。民有地は、そこは関係ないんです。町有地を今の確定の話をしています。それが含まれているから、ちゃんと地積をしてくださいという話です。

そして、私は、先ほど、収賄という言葉も出しましたが、それはぜひ訂正させてください、削除してほしい。ここは素直に謝ります。

ですから、こういった大事な問題を議会のほうには、私は9月の定例会の一般質問のときに初めて知りましたし、そういった大事な問題を地元の人も知りません。地元の方は、ここは、あそこは自衛隊の関連施設ができるんじゃないのとか、いまだに言う人いますよ。そして、私にもあそこは自衛隊の一番最適地だと、そういう人もかなりいます、これ本当ですね。そういったことも含めて、しっかりと、そこはやっていただければ。そして、あまりヒートアップすると、もう少し言いたいことありますね。

ですから、全くそこに関連もしてきますけども、この町有地、龍郷町のほうで、令和4年の臨時議会がありまして、そのときに、町有地を、もともと町有地だった場所を、20町分の山林ですね、山、そこを7千万円で買い戻していますね。そういうこともやっています。これ、ネットで調べると出てきました。

ですから、今からでも私は遅くないと思っています。あその土地は、県道から道路を挟んだ東側、北に向かって東側、あの一帯、今問題のある、町有地を含めたあの一帯ですね。ぜひ、今からでも遅くないと思いますよ。そこを買い戻して、そこをしっかりと町が管理する。それが、あわよくば自衛隊の関連施設に持っていける可能性もあるわけです。

私、個人的な見解から見れば、防衛関連施設を造らせない、妨害にも取れるわけですよ。そういったことも含めて、そういったことも可能なのか、少し答弁をお願いします。

○森田 弘光町長

柏木議員から、あるリゾート会社のほうに売却した、今、民有地も町が町有地として買い戻してくださいという要望というふうに承知してよろしいのでしょうかね。

それについては、また、今リゾート開発ということで進んできております。そこについて、また、私たちが、そこはこういうしっかりと根拠のある利活用計画とか、そういったものということで、そこは何かというと、自衛隊だということですけども、そこについては、確定的なこともございませんので、今、私たち、町としては、そこを、民有地を民間の方に売ったところを町有地として買い戻すというようなことについては、ご意見として議会で発言があったということについては承知しておきますけども、今、じゃあ分かりましたという話には、まだ賛同できないというところでございます。

○10番（柏木 辰二議員）

それはそうだと思います。ぜひ、その辺も含めて、私は、ぜひ検討して、検討でない、もう前向きに考えていただきたいと思います。

この龍郷町の土地は、一旦、町有地を払い下げました、そのまた会社が手放すという情報を、町のほうで独自で入手して、そういった7千万円というお金をかけて買い戻しています。これは水源地でもあったり、山手だったり、いろんなことの乱開発だったり、その辺が危惧されると。そういったことで、こういった対応も取られています。

天城町は、逆に、リゾート開発とかそういったきれいな言葉で、私は話を持ってこられて、それにそのまま乗っかって、そういった大事な場所、東シナ海に臨む、そんな大事な場所をそのままリゾートに持っていく。そして、それが、私は先ほども言いましたが、この長いスパンで見たときに、30年、40年、50年ですよ、もう私も生きていませんよ。もちろん、そこに座られて、もし生きているかもしれない。

ですけど、そういったことも予想される中で、しっかりそこも考えていくのが、今現在、私たちがやるべきことなんですね。孫、ひ孫、この代まで、そういった未来永劫あるわけでもない、そういう施設を造って、その場所が転売されて、転売、転売でわけ分からない土地、その一帯にコミュニティーができて、治安も悪くなって、そういった可能性もあります。私は、あの近くに住んでいるからこそ、こういうことを言いたいわけです。一番危険な場所です。そして、これに加えて、土地の評価額もどんどん上がったという話も聞いています。

そして、もう一つ、はっきり言いたいのは、企業誘致、私はあなた方の企業誘致に対する考えが全く間違っていると思いますよ。企業誘致は、ある特定の人が転売して利益を得たり、仲介手数料で利益を得たり、そんなことが企業誘致にならない

わけですよ。先ほども久田議員が休憩中にありましたが、全くそのとおりですよ。それが、なぜ企業誘致なんですか。企業誘致ということを間違っていますよ、使い方が。もっと、その辺をしっかりと。だから、そういった簡単な物の捉え方をするから、疑い不信感があるわけです。いまだに、今日の一般質問を終えて、ますます私は不信感を抱いていますね。そういったことです。

ちょっと、いろいろと興奮すると、なんか忘れてしまって、もうこれ以上言うこともないかもしれませんが、ぜひ、今回の件は、私からすれば、町民の土地、町有地は町民の財産です。その町有地の管理を怠って、地元の説明会もない、ただただ行政側で進んでいく、最後には議会の議決を経る、こういった案件をあまりにも簡単に考えている、そういった、もう少し厳しい言い方すると、町民を欺いて、そういったことをやられている。そして、自衛隊誘致のそういった件に関しては、本当に誘致したいのであれば、本気度がなければ、相手から見透かされますよ。そういった面から、私は今の町政は危機管理意識の能力の欠如だと言いたいと思います。そういったことも含めて、今後は、今日の一般質問の中身、そして町政の運営の在り方、そこを軌道修正していただくことを要請して、私の一般質問を終わります。

○議長（上岡 義茂議員）

以上で、柏木辰二議員の一般質問を終わります。

次に、議席番号6番、奥好生議員の一般質問を許します。

○6番（奥 好生議員）

議場の皆様、また、A Y Tテレビをご覧の町民の皆様、こんにちは。議席番号6番、奥好生でございます。「住んでよかった。暮らし満足度NO. 1のまち」を目指すという森田町長の政治方針に沿った形で、執行部の皆さんは、むーるし語ろう会なども含め、行政運営に日夜、鋭意努力されているものと察します。今後とも、町民の声に耳を傾け、スピード感を持って、町民の生活が一層豊かになりますよう期待を込めて一般質問をいたします。

1 項目め、介護予防申請について。

その1点目、介護予防事業申請時の基本チェックリスト（25項目）について。

2点目、本町の介護予防事業にはどのような事業があるか。

2 項目め、介護認定申請について。

1点目、介護認定調査項目（74項目）について。

2点目、介護認定調査員は、本町には何名いるか。

3点目、介護認定の一次判定の仕組みについて。

4点目、介護認定の二次判定の仕組みについて。

3 項目め、農業政策について。

1 点目、現在の簡易ハウス設置助成事業のハウス面積を 20 m² 以上に変更できないか。

4 項目め、道路行政について。

1 点目、瀬滝集落・上屋久地区の町道の改良について。

5 項目め、政策立案・政策実現能力（課題解決能力）向上について。

1 点目、鹿児島大学との連携協定は活用できているか。

6 項目め、教育行政について。

1 点目、小中学校に導入した仮想デスクトップシステムの不具合について。

2 点目、パブリックコメント制度について。

3 点目、義務教育学校「にしあぎな学園（仮称）」基本構想（案）について。

4 点目、学校給食センター建設の進捗状況について。

5 点目、教員住宅の管理について。

6 点目、学力向上対策と教科セミナーについて。

以上、6 項目 15 点について質問いたします。「住んでよかった。NO. 1 のまちづくり」を目標に、前向きな答弁、議論をお願いし、1 回目の質問を終わります。

○議長（上岡 義茂議員）

ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

森田町長。

○森田 弘光町長

それでは、奥議員のご質問にお答えしてまいります。

1 項目め、介護予防申請について。その 1、介護予防事業申請の基本チェックリスト（25 項目）についてということでございます。

お答えいたします。

基本チェックリスト、これは 25 項目ございますが、基本チェックリストにつきましては、相談窓口において、必要なサービスができるよう、本人の状況を確認するツールとして使用しております。

介護予防申請について。その 2、本町の介護予防事業にはどのような事業があるかということでございます。

お答えいたします。

介護予防事業につきましては、地域の高齢者が集える場を設け、その中で健康づくり及び介護予防に関する知識・実践方法の普及を行いながら、自主的に地域の活動を行い、集落ごとの介護予防の推進を目的にゆいゆいサロンを実施しております。

また、その他では彩りサロン、高齢者元気度アップ・ポイント事業等も行っております。

2 項目め、介護認定申請について。その 1、介護認定調査項目（74 項目）についてということでございます。

介護認定調査項目は 74 項目ございますが、その項目につきましては、徳之島地区介護保健組合の調査員におきまして、申請者の生活を体系的に理解できるように、①身体機能・起居動作——起きたり座ったりの起居動作、②生活機能、③認知機能、④精神・行動障害、⑤社会生活への適応の 5 群——これは 62 項目あるようでございますが——と特別な医療が行われている場合の 12 項目の調査を実施しております。

介護認定申請について。その 2、介護認定調査員は、本町には何名いるかということでございます。

現在、天城町はゼロ名となっております。徳之島地区介護保健組合の中で、徳之島町が今 4 名、伊仙町が 3 名となっております。

介護認定申請について。その 3、介護認定の一次判定の仕組みについてということでございます。

お答えいたします。

一次判定の仕組みにつきましては、基本調査と主治医意見書を一次判定ソフトに入力し、要介護認定等基準時間、これは介護の「手間」、介護の時間等を推測、推し量り推測し、要介護状態区分の判定をしているところでございます。

介護認定申請について。その 4、介護認定の二次判定の仕組みについてということでございます。

お答えいたします。

二次判定の仕組みにつきましては、介護認定審査会、これは保健・医療・福祉に関する学識経験者で構成されておりますが、介護認定審査会におきまして、一次判定の結果、または基本調査の特記事項、主治医意見書の内容を踏まえて総合的な判定を行っております。

3 項目め、農業政策について。その 1、現在の簡易ハウス設置助成事業のハウスの面積を 20m²以上に変更できないかということでございます。

お答えいたします。

簡易ハウス設置事業につきましては、100m²以上という基準がございましたが、令和 6 年度より下限、下の限度を撤廃し事業を進めているところでございます。

家庭菜園等への導入により、自給野菜の向上や地産地消の推進につながっていけばと考えております。

4、道路行政について。その 1、瀬滝集落の上屋久地区の町道の改良についてということでございます。

お答えいたします。

上屋久地区の町道瀬滝通学路線につきましては、令和８年度に測量・設計を行い、令和９年度以降に緊急自然災害防止対策事業債を活用し、法面崩壊防止対策等の工事を進めていきたいと考えております。

５項目め、政策立案・政策実現能力（課題解決能力）の向上についてということですが、鹿児島大学との連携協定は活用できているかということでございます。

お答えいたします。

徳之島３町と鹿児島大学は令和２年５月に包括連携協定を締結しております。各種調査研究等を通じて地域の課題解決に取り組んでいるところでございます。本町におきましては、利活用できていない未利用肉の高付加価値化実証プロジェクトをはじめとする３つの連携事業の実施の実績がございます。

また、本年７月より鹿児島大学が奄美群島の行政職員を対象と実施しております「奄美環境プログラム」に現在３名の職員が参加しております。

引き続き、鹿児島大学との連携を図り、各種施策における専門的知見からの助言や調査・研究等を通じ地域課題の解決に取り組んでまいり所存でございます。

６項目めの教育行政につきましては、教育長のほうからお答えいたします。

以上、奥議員のご質問にお答えいたしました。

○議長（上岡 義茂議員）

次に、教育行政についての質問に対し、答弁を求めます。

○院田 裕一教育長

それでは、皆様、きゅうがめーら。こんにちは。

それでは、奥議員の６項目めの教育行政についてのご質問にお答えいたします。

その１点目、小中学校に導入した仮想デスクトップシステムの不具合についてでございます。

お答えいたします。

まず、仮想デスクトップシステムとは、パソコンの中にデータやソフトを入れるのではなく、サーバー（大きなコンピューター）に入っているものをネットを通して使う仕組みでございます。

利用者は自分のパソコンで、そのサーバーの画面を見ながら操作します。この方法のメリットは、情報が外に漏れにくくなり、サーバー側でまとめて管理できるので、安全性が高まります。

その反面、「動きが遅い」、「急に止まる」、「画面を切り替えるのに時間がかかる」などの課題が出ているという声が学校から届いております。

教育委員会としては、こうした課題を解決するため、現在、調査をしているところでございます。

その2点目、パブリックコメント制度についてでございます。

お答えいたします。

パブリックコメント制度とは、国や地方自治体などの行政機関が、新しい法律や条例、政策などをつくったり変えたりする際に、その案を広く一般の人々に公開し、意見や情報を求める手続のことでございます。

教育委員会としては、令和8年4月開校に向けた義務教育学校「にしあぎな学園」仮称でございますけども、この設置について7月から8月にかけてパブリックコメントを町ホームページを通じて実施したところでございます。

教育行政の3点目、義務教育学校「にしあぎな学園（仮称）」の基本構想（案）についてでございます。

お答えします。

「義務教育学校」とは、平成28年の学校教育法改正で新たに設けられた学校制度で、小学校から中学校までの9年間を一貫して教育する学校です。「にしあぎな学園」の基本構想の柱としては、9年間を見通した教育課程を編成でき、児童生徒の成長に合わせた切れ目のない学びが可能になります。また、今まで以上に小中学校の教員が連携して指導することで、学びの質を高め、一人一人に応じた指導や協働的な学びが充実します。そのほか、地域や保護者と協働した学校づくりを進めやすく、西阿木名・三京に特化した特色ある教育活動、例えば、地域学習「あぎな学」われんきゃガイドを含むことでございますけど、または、文化財を活用した授業等の充実が期待されているところでございます。

大島地区初の義務教育学校「にしあぎな学園（仮称）」は、来年4月に開校する予定でございます。

4点目、学校給食センター建設の進捗状況についてでございます。

お答えいたします。

学校給食センターの建設につきましては、実施設計を令和6年度に完了しております。当初、国の学校施設環境改善交付金を活用して2年間の継続事業として建設する予定でありましたが、国の方針により、現時点では交付金の多くが学校体育館の空調整備等への割当てとなり、交付金の内定が非常に厳しい状態となっております。

つきましては、一般財源を活用して事業計画を2年から3年に変更し、早期完成・早期運用ができるよう事業を進めていきたいと考えております。

教育行政の5点目、教員住宅の管理についてでございます。

お答えいたします。

教員住宅につきましては、教育委員会総務課で管理しております。入居後の環境整備につきましては、基本的に入居者が管理することが望ましいと考えております。

今後とも継続した取組としては、定期的な点検と修繕を行いながら本町に勤務する教職員の皆様に住みやすい住宅環境を提供していきたいと思っています。

教育行政の6点目、学力向上対策と教科セミナーについて。

お答えいたします。

教育委員会としては、学力向上対策として数学・英語・漢字検定の実施や学習意欲の向上を目的に、昨年度から「海外派遣」や「天城イングリッシュクラブ」、「まちなか留学」を実施し、外国語に興味や関心等を高める授業を展開しながら子供たちの学力の底上げと学習意欲の向上を図っているところでございます。

また、小学生対象の学力コンクール、テストのことですけれども学力コンクール及び中学生対象の統一模式を実施し、学力向上の一助となるように取り組んでいるところでございます。

教科セミナーにつきましては、3月の定例会でもお答えいたしましたが、子供たちの学力向上を目的に令和4年度から、33年間継続して取り組んでいる事業でございます。

5・6年生を対象とする小学生の教科セミナーにつきましては、講師の確保やスポーツ少年団及び習い事などにより参加者が少ないことから昨年度から休止しております。

中学生の学力向上が本町の大きな課題となっていることから、中学生に絞り込んで実施しているところでございます。

以上、奥議員のご質問にお答えいたしました。（「令和を平成に」と呼ぶ者多し）

すみません、令和4年が平成4年の間違いでございます。

○6番（奥 好生議員）

町長と教育長から1回目のご答弁を頂きました。これから、再度、具体的な内容についてご質問をしていきたいと思います。

まず、1項目めの介護予防申請について。1点目の介護予防事業申請時の基本チェックリストについてでございますけれども、私が以前から気になっていたことなんですけれども、ここに第9期の介護保険事業計画というのがあるんですけれども、この56ページに対応フローチャートというのがございます、以前から、介護認定申請はこのフローチャートに沿ってという説明がありましたけれども、私、ずっと気になっていまして、最近やっとこの答えが出たような気がするんですけれども、この

基本チェックリストというのは、介護認定申請とは全く関係がないわけでした、高齢者の介護予防や生活支援の必要性を判断するための25項目からなる質問票のことだと認識していますが、課長、どうでしょうか。

○中村 慶太けんこう増進課長

お答えいたします。

この基本チェックリストは、介護申請には使わないチェックリストとなっております。

○6番（奥 好生議員）

それと、もう一つ、これはもう即、けんこう増進課の職員に改善をしていただいたんですけども、町のホームページに、介護サービスを受けるには、要介護（要支援）認定の申請をします、どういうときにしますかというところが、「体調のよいときに調査を受ける、いつもと違う体調のときには正しい調査ができないことがあります」というふうに書いてありまして、これもちよっと気になりまして、私たち、普通人間は、体調がいいときは病院に行きませんよ。相談もしません。常日頃、体調が悪いときに相談に行くわけですよ。担当の職員は、すぐ、これを検討しまして、ホームページの内容を変えていただきました。「心身の状態等が安定しているときに調査を受ける」というふうに修正していただきました。

このように、スピード感を持ってやってもらえる職員もいますので、今後とも正しい行政に取り組んでいただきたいと思います。

続きまして、2点目の本町の介護予防事業にはどのような事業があるかということなんですけども、私が知っている限りでは、先ほど町長の説明がありました、ゆいゆいサロン、彩りサロン等が主な職員が頑張っている事業なんですけども、ほかの市町村などを参考に見てみますと、ほかにもいろんなできる事業があるみたいですので、細かいことは言いませんので、こういったものにも、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

一番肝心なのは、この基本チェックリストによって判定される事業対象者、これをやっぱり把握しておかないといけないわけなんですよね。過去には100%補助のこういった事業があったみたいなんですけども、今はなかなかこういったことをされていないような気がするんですけども、やられていますか。事業対象者の把握されていますか。

○中村 慶太けんこう増進課長

はい。一応、この事業対象者を選別するためにこのチェックリストを使いまして、対象者を絞っております。

○議長（上岡 義茂議員）

しばらく休憩します。2時10分より再開します。

休憩 午後 2時00分

再開 午後 2時10分

○議長（上岡 義茂議員）

休憩前に引き続き会議を開きます。

中村けんこう増進課長。

○中村 慶太けんこう増進課長

お答えいたします。

先ほど奥議員のほうから、基本チェックリストの活用方法についてということがありました。今後、特定健診、長寿健診等で活用していきたいと考えております。

○6番（奥 好生議員）

やっぱり介護は予防が一番必要でありますので、介護認定、要介護5とかにならないためにも、そういった人を多く増さないためにも介護予防が一番大事ですので、そこら辺にぜひ力を入れていただきたいと思います。

続きまして、2項目め、介護認定申請について。1項目について、町長のほうから細かい説明がございましたので、2点目についてお尋ねします。介護認定調査員は、たしか介護保険組合が設立した当時、天城町には2名ほどの割当があったと思うんですけども、今後どのようにされるのか。総務課長、ちょっと、けんこう増進課と協議の上、今後どうしますか。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

私も、いろんな協議会とか一部事務組合、そういった構成の中にいる人たちについては、これは全体的なんですけども、何か割当てみたいなのがあるような気はいたしておりました。

そういう中で、今、先ほどゼロ名と聞いたときに、その辺は、また再度、一旦、一度、またもう一回議論して、もしそういった、そのような適任者がいれば、天城町の中からも出すべきだというふうに考えております。

○6番（奥 好生議員）

なるべく早い時期に介護保険組合とも協議をして、ハローワーク等に求人募集をするなり、役場のけんこう増進課の前あたりに、そういった募集の案内をするなり努力をしていただきたいと思います。けんこう増進課長、どうでしょうか。

○中村 慶太けんこう増進課長

お答えいたします。

今、徳之島地区介護保険組合において雇用を行っております。今現在、会計年度任用職員という形で調査員が配置されております。今、もう今年度の会計年度任用職員は、もう配置されておりますので、年度更新となっております。再度募集があるかと思っておりますので、本町のほうでも介護保険組合の募集があるという告知等もして、周知を図っていきたいと思います。

○6番（奥 好生議員）

ぜひ、天城町にも2名の割当てがあるわけですので、天城町の町民で希望者がおれば、すぐ採用できるような体制をとっていただきたいと思います。

あと3点目、4点目については、町長のほうから細かい説明がございましたので、省略させていただきます。

あと、まとめとしてなんですけども、火のないところに煙は立たないとも言います。今までは、いろんな介護認定申請についての苦情もありましたので、今後、方針転換をして、介護認定申請に来た方は、すぐ受付をして調査員に回して、認定審査会に行けるような形をすぐとる。そして、介護予防申請については、また別のやり方で、介護予防事業対象者を把握に努めていただきたいと思います。

理想的なのはピラミッド型なんです。一番上に介護5、一番下は要支援1、要支援1からが人数が多くて、だんだん人数が少なくなっていく。それが理想的なんですけども、人口全体がピラミッド型ではないので、そういうわけにはいかないと思うんですけども、ぜひ、要支援1、要支援2の事業も増やして、介護認定者が少なくなるような、あるいは、町民が健康寿命を延ばすような努力をしていただきたいと思います。

以上で2項目めを終わりたいと思います。

3項目め、農業政策について。1点目の、現在の簡易ハウス設置助成事業のハウス面積を20m²以上に変更できないかということですが、先ほどの町長の答弁の中で、もう令和6年度から実施をしているということなんですけども、できれば、農業センター辺りにモデルとなるような小さいハウスを展示をして、農業塾に来られる方たちに説明をして、金額は大体20万円前後くらいで建てられるんですよ、そういったところも、なるべく農家負担にならない、高齢者の負担にならないような、そういったことも検討していただきたいと思いますけども、どうでしょうか。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

この上限が廃止されたこともPR不足だったと思いますので、その点も含めて、農業塾に来られる皆さんに周知徹底を図っていきたくて思っております。

○6番（奥 好生議員）

ぜひ頑張っていたきたいと思います。

続きまして、4項目めの道路行政について。先ほど町長の答弁から、7年度に設計をして8年度に事業を予定ということですが、今朝も現場を見てきましたけども、大体距離にして80mぐらい、そのうちの40mぐらいは、もう3年以上前から土のうを積んでそのままです。勾配が、間の30mぐらいは側溝もなくて、下の畑にほとんど水が流れる状態なので、そこ辺り、現場、10回でも20回でも現場を見て、いい道路ができるように設計をお願いしたいと思いますが、建設課長、お願いします。

○宮山 浩建設課長

この瀬滝通学路線、以前から要望がありまして、建設課のほうで土のうを並べている状態がずっと続いております。法面の状態が非常に悪いので、土中用のガードレールの支柱も半分浮いてきている状態になってきております。大体その区間が40mぐらいですので、来年度、測量設計をして、緊急自然災害防止対策事業債を活用して何とか工事できないか進めていきたいと考えております。

○6番（奥 好生議員）

ぜひその集落の組に喜ばれるように、早い段階でお願いしたいと思います。

続きまして、5項目め、政策立案・政策実現能力（課題解決能力向上）について、1点目の鹿児島大学との連携協定は活用できているかということでございます。

この連携協定の中身を、ちょっと見させていただきましたけども、連携内容、目的から言いましょうかね、それぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

連携内容、①農業・水産業・畜産業の振興に関すること、②文化の振興・地域教育及び人材育成に関すること、③国際交流・観光の振興に関すること、④地域活性化に関すること、⑤その他、相互に連携及び協力が必要と認められる事項となっています。

こういうふうな内容だとしますと、役場の課全体に関連する事業というか、できるのではないかと私は思うわけなんですけども。

つい最近、企画課長と話をしましたら、鹿児島大学から何か連絡があったそうなんですけども、企画課長。

○森田 博二企画財政課長

お答えいたします。

この連携協定に基づいてということで、鹿児島大学のほうから8月7日の日に役場のほうに来庁されました。地域課題の収集ということで、天城町のほうに来られたわけでありましたが、これを受けまして、8月15日に課長会のほうで、各課全課

のほうに、いろんな課題があるのであれば、ぜひ提出をということでお願いをいたしました。

1件は提出がありましたので、今、既に鹿児島大学のほうへ、その課題の調書を送っているところです。また、その後、また、これからだと思いますが、担当課のほうと協議をしながら、事業としてできるのかどうか、そういった回答が来るものと思っております。

内容につきましては、また社会教育課のほうから説明させていただきます。

○中 秀樹社会教育課長

お答えいたします。

今、企画財政課長のほうからありました、課題との連携ということで、以前、私が商工水産観光課におったときに、この連携協定を結んで、広く課題と天城町の各事業等を連携できるような取組ということで、先ほど議員の方からおっしゃった、いろんな施策の中身になっておりますが、その一つということで、今後の展望ということになっておりますが、今、まだ全然、決定ではないんですが、B & G財団のほうと、今、ちょっと協議を重ねておりまして、実現できるかどうかは、今後の、また町とB & G財団との話し合いになるとと思いますが、水耕栽培を今後できないかという方で今、事業を、今取組を、まだ第一段階にはなりますが、水耕栽培ですね、その取組を、鹿大と、それができた後に鹿大との連携ができて、この水耕栽培がうまくいけるように助言をもらったりするような形を取りたいということで、窓口、社会教育課の私の方で、地域課題の調書ということで提出をさせていただきました。

○6番（奥 好生議員）

私の聞き違いかも知れませんが、水耕栽培ですか。水耕栽培と言いますと、具体的には。案でいいですよ、案で。

○中 秀樹社会教育課長

お答えいたします。

徳之島町の方で水耕栽培されていますが、B & G財団の方で、この農福連携を図るという意味合いを含めて、ある一定の補助事業の中で行えると。まだ今、全然大まかな取組ではなくて第一歩の段階で、まだヒアリングをしているような状態になりますが、そこで一回ちょっと提出を、B & G財団の方とこういった連携ができないかということで、鹿児島大学の方に調書を提出させていただきました。

○6番（奥 好生議員）

社会教育課は、生涯学習の一環として幅広い事業があるわけなんですけども、水耕栽培となると、他の課との連携が必要じゃないかと思うんですけど。

○中 秀樹社会教育課長

すみません、B & G財団ということで、窓口は社会教育課の方で行っておりますが、長寿子育て及び農政課の方、また農業センターの職員と、みんなで共有しながら、今この事業を、将来持っていけるように、今ヒアリングをしているような状態になっております。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。今、中課長からありましたように、B & G財団からの補助ということで、今、3課で連携をして事業を進めている、ヒアリング状態ですけど、今やっている途中でございます。

○6番（奥 好生議員）

B & G財団が関連するということで、窓口が社会教育課ということで納得しましたけども、大変すばらしい考え方だと思います。ぜひ、鹿児島大学と連携をして、関連課もチームを作って頑張りたいと思います。

ほかには、鹿児島大学は、教職員、研究家何百人というわけなので、いろんな研究家がいると思うんですけども、企画課辺りでは、行財政について鹿大と連携するような考えはないでしょうか。

○森田 博二企画財政課長

お答えいたします。

冒頭、町長のほうの答弁の中でもありました未利用肉の高付加価値化実証プロジェクト、また、それ以外でも、天城町では、過去の計画になります、天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のときにも、鹿児島大学の教授の方に審議員になってもらいまして助言をしていただいたところであります。

今、行政改革の件でもありました。それにつきましては、また、今ちょっと資料を持っていないんですけども、任期等も確認しながら、もしお願いができるのであれば、そこ辺りも考えてまいりたいと思います。

○6番（奥 好生議員）

私が、この質問、政策立案、政策実現能力というふうに質問しているのは、やっぱり、普段、日頃、役場の場内の仕事もあります。あるいは、自宅との通勤途中とかいろいろあります。やっぱり目で見て、これが問題だ、課題だと認識、まずその認識ができないと政策もつukれないわけなんですよね。

政策立案というのは、やっぱりその課題を課題として受け止めるか、そういった能力も必要だと思うんですよ。そういった課題を見つけて、じゃあ、その課題に向かって、実験的に試験的に何かをしてみようと思ったときに、一人ではできないわけです。そういったときに、鹿児島大学の研究家とかを利用して、研究家というのは、自分の思ったことしか真っすぐにいけませんので、そこには失敗もありますか

ら、そうじゃなくて、自分たちの、言い方は悪いんですけど、都合のいいところだけを、その研究家から技術などをいただいて、天城町に沿った形で政策を実現するという、そういった考えが、やっぱり町民のために、そういった情熱を持って取り組む姿勢というのが必要じゃないかと思って、この質問をしました。一応、各課長さん方は、いろいろ考えておられるようですので、この質問は、これで終わりたいと思います。

続きまして、6項目め、教育行政について。先ほど教育長からございました、仮想デスクトップシステムの不具合についても、細かい、仮想デスクトップとはどういうことかということも説明ありました。実情も分かっているようです。私も7月の初めぐらいですかね、学校が困っているということを耳にしました。一応、調べました。

納入した会社は鹿児島県内の業者さん。入れた機械、システムは県外のシステム。話を聞きますと、そのシステムとセキュリティシステムの相性が悪いということも分かりました。これがずっと続いているわけですね。その解決に向けて取り組んでいると言いますが、業者が納入した品物がうまく使えなかったら、返品をするか、もう1ヶ月間ぐらいの期間をつけて終了してもらおう。できなかったら、もう返品、新しいのを取り替える。

例えば、伊仙町は、役場の中に仮想デスクトップシステムを入れてあります。その納入会社は、天城と同じ鹿児島県内の企業です。だけど、システム自体は、日本の大手の企業のシステムを入れてあります。不具合があるとは聞いておりません。ですので、早急にその解決策を見つけて改善をしていただきたいと思います。

なぜかと言いますと、学校の教職員は、天城町に転任してくる前は、あちこち、やっぱり経験しているわけですよ。そうすると、何で天城町の教育現場のICT環境が悪いのか、それが口コミで、また、あちこちに広がって、天城町には来たくないという、そういったことも無きにしも非ずですので、教職員が働きやすい環境の整備に、ぜひ努めていただきたいと思います。教育長、どうでしょうか。

○院田 裕一教育長

ありがとうございます。本当、今議員から、本当に耳の痛いというか、そういうことをご指摘いただきまして。私も学校現場の皆さんと話をするときに、このパソコンの話も聞いております。そしてまた、和田課長と一緒に、実際に学校を見せてもらっても、ああそうなんだということで大変申し訳ないかなと思っております。

それで、過日、業者の方も一緒に交えて、いろいろと話を具体的にもう今進めていますので、本当に一日でも早い、そういう教職員が働きやすい環境づくりをご提供ができればと思っております。ありがとうございます。

○和田 智磯教委総務課長

お答えいたします。

まず、この学校のパソコンの校務用ですけれども、不具合が出ていることに対して非常に申し訳なく思っております。

ただ、この天城町が導入している仮想デスクトップというのは、ご説明させてください。文部科学省のインターネット・セキュリティポリシーというものがございまして、校務用コンピューターをネットワーク分離された環境で運用して、教職員が端末を固定せずに、どこからでもアクセスできるクラウド型校務支援システムの整備ということがございます。

実際にこれが分離されていないことにおきまして、こういった事例もございます。鹿児島県内の市役所、学校のほうでウイルスに感染をしまして、その大元が庁舎内にありまして、そこがサーバーがダウンをしまして5日間業務が停止したという事例、あと全国的にもございます。

こういったことを避けるためにも、文科省のほうは指針を出しているわけなんですけれども、ご質問のありました、この遅い環境に対しまして、細かいレド的なレスポンス、PCの動作が遅いとか、あとアクセス遅延、こういったものが問題がございます。

今、教育委員会として、すぐできるものとしたしましては、パソコンを新規に計画的に購入をいたしまして、随時、計画的に先生方のほうに少し配布をしていただいて、その間にこの原因を探るのと、また完全に駄目な場合には、もう入れ替えるという、こういった形でできたらと思います。

先生方におかれましては、もうしばらくお時間をくださいとお願いをしたいところでございます。

○6番（奥 好生議員）

たしか5月ぐらいには、もう分かっていたような気がするんですけども、5、6、7、8、あと何ヶ月で改善されますか。

あのですね、よくこういうこと言われるんですよ。今、現実問題として、学校の事務職員の業務を、天小辺りでも、天中辺り、西阿木名辺りに見に行かれましたですか、業務は。役場職員と違って、県費ですので、県の給与システムを使うわけですよ。インターネットも使います。校務支援も使います。パソコンを3つ使わないと駄目なんですよ。

徳之島町は、教育委員会から配分した予算、学校配分の伝票、授業費とかの伝票は、教育委員会の事務局がやっていますので、徳之島町の事務職員は、パソコン1台で十分なんですよ。伊仙町は2台で十分です。天城町は今、3台ないと使えな

い状態なんですよ。事務職員が職員室に行って、教職員の給与とかそういったシステムをインターネット、職員室へ行って使って、またプリントアウトして帰ってくる。大変手間がかかる状態で、ほかの市町村では考えられないことを天城町はやっていると言っているわけですよ。それを、鹿児島市がああだった、こうだったとか、そういったことは言うべきものでもないし、それは言い訳にしかならないですよ。早く、一日でも早く、パソコンは、ノートパソコンを買ってあげるんだったら買ってあげる、そういうふうに早急にやってください。そうしないと、天城町へ転入していきたくと思う教職員がいなくなるわけですよ、はっきり言って。そこら辺は、しっかりと真剣に考えてやってください。教育長、もう一回お願いします。

○和田 智磯教委総務課長

お答えいたします。

早急にパソコンの更新計画を立てまして、学校のほうに計画的に、先生方に使っていただける環境を整えていきたいと思います。

○6番（奥 好生議員）

総務課長にお尋ねします。今、教育委員会は、そうおっしゃっていますけども、私、総務課長にも、教育委員会には電算システムの担当がいないので、総務課長の方に電算システムが2名いるんですけども、総務課長にも天小に行って状況を見てくださいというのをお願いしましたけども、今、早急にパソコンを買いたいということです、予算を何とかつけて、早急に一日でも早く、学校側の教職員のICT環境がよくなるように、使えるように、早く手を打っていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○福 健吉郎総務課長

お答えいたします。

以前からそういった不具合があったというのは聞いております。そういう中で、電算の方とも教育委員会の総務課とも協議しながら、早急に改善できるように、また、予算が伴うようであれば、早急な予算化も考えていきたいと思っております。

○6番（奥 好生議員）

ぜひ前向きに進めていただきたいと思います。

続きまして、2点目のパブリックコメント制度につきましては、教育長の方から細かい説明がございましたので一応省略しまして、次の3点目の義務教育学校にしあぎな学園（仮称）基本構想案についてでございますけども、この基本構想案というのは、私の考えですよ、来年4月から開校するわけですので、早くても1年前には基本構想案ができています。もしくは、遅くて今年の6月、7月ぐらいまでには構想案ができていて、その上でパブリックコメントをしなければならないと思うので

すけども、この前、議員みんなに配られた、開校に向けたスケジュールを見てみますと、16項目ありまして、そのうち8月までに終わったのは、校名の検討1件だけです。あと15項目は、12月、あるいは、ほとんどが2月とか3月になっています。

一番気になるのは教育課程ですよ。義務教育学校は設置されていませんので、多分校長はそのまま行くと思うんですけども、まだ校長が決まっていけませんので、教育委員会のほうで教育課程はつくらないといけないと思います。ここにも担当も教育委員会の指導主事の名前が載っていますけども。

教育課程の編成、学年の区切りは6・3制なんですけども、これを基本として4・3・2制にするのか、2・2・3・2制にするのか、5・4制にするのか、その案がまだ決まっていないということは、ちょっとよろしくないんじゃないかと思ひまして、やっぱり大島郡初の義務教育学校をつくるのであれば、天城塾とか、今既にやっている天城ガイドとかそういうのじゃなくて、教育編成にも魅力のある、例えば、専門課程を置くとかですね、6年生のほうに。そういった具体的な教育課程編成、そういったものが、やっぱり案としてつくるべきではなかったかと思うんですけども、教育長、どうでしょうか。

○院田 裕一教育長

お答えいたします。

パブリックコメントを取ったというところで、私たちの基本構想というのは、昨年のもう令和6年、7年でずっと説明をしている中で、地域の方々には基本構想は示しておりました。

ただ、教育課程につきましては、今、5・4とか、6、いろいろありますけれども、これをするには、三京分校をどうするのかというふうなことが、一番の私たちの課題でした。つまり、三京分校を、例えば4年でいいよとなれば、例えば、4・5とか、できたわけですけども、地域の中から、どうしても三京分校は6年で置いてほしいというのがございましたので、今、学校長ともいろいろ語ってはいるんですけども、やっぱり6・3でいこうというようなことで、今、教育課程の編成は、今、考えております。

この教育課程も、昨年の令和6年、7年で、ずっと研究、うちの指導主事も含めて、現在の校長ですけれども、指導主事も含めて、学校とずっと連携をしてやっていますので、ほぼ教育課程は、もう固まりつつあるということです。

あと、学校にはグラウンドデザインというのがありますけども、これの令和8年度に向けたグラウンドデザインというの、ほぼ学校のほうでは、ある程度、固まりつつありますので、この名前がしっかり、今回のこの議会で通れば、またそうい

う新たな情報公開として、地域の方々や卒業生や、広く、もう少ししっかりとできるのではないかというふうに思っております。

○6番（奥 好生議員）

そうしますと、教育長の説明だと、今、この前までやっているパブリックコメントは何だったかということになるんですよね。やっぱり、できれば、10月、11月ぐらいまでに基本構想案をはっきり明確な案を作って、12月議会前ぐらいまでには示していただけないでしょうか。

○院田 裕一教育長

ちょっと、私が今、一つ、あれしているのは、パブリックコメントとは、先ほどずっと、私も先ほど説明をしたような、イエスかノーかというか、こういうのをつくるんだけどどうだろうかというふうなことが、パブリックコメントだと思うんですけれども、私の考えている今回のご意見を聞いたというのは、教育委員会がパブリックコメントが本当に妥当かどうかというのは、今ちょっと、私も申し訳なかったなと思っていますけれども、地域やPTAの方には、ほぼ了解をいただいたと。

ただ、先輩方、都会にいたにしあぎな小中学校の先輩方や卒業生やそういう方々に周知するためのものが、今回のこのホームページ上でやったものだというふうな認識、そういうことで、やったということで、ちょっとパブリックコメントという言葉を使ったというのは、ちょっとまずかったのかなって、今すごく反省をしていますけども、周知徹底ということで、その中で基本構想というの、ある程度ずっと設置目的と背景とか、義務教育学校の期待される効果とか、それから、こういう課題があって、それに対応するものとか、三京分校はどうするのか、新しい学校名が変わるまで地域の方々とどんなふうにしてやってきたのか、こういうふうにとありますので、これが私としては基本構想なのかなというような思いがあります。

以上です。

○6番（奥 好生議員）

基本構想は、もう教育長の頭の中にある、あるいは地域でも説明して固まっていると言われるのであれば、なぜ私たちに、こういった3月までに、このスケジュール表ですね、こうしたのをお配りになったのか、ちょっとこれは今ひとつ私は理解できないわけなんですよ。

そうであれば、そうやって決まったものを、教育課程も6・3で行きますとか、そういったところも示してもらわないと、西阿木名だけの問題じゃないわけですよ。これ天城町がつくる義務教育学校なんですよ。そこをやっぱりちゃんとしっかり考えてやっていただきたいと思いますので、再度。

○院田 裕一教育長

この業務間のスケジュールのことについては、一応ここがゴールだということで、必ずここまではやっていこうというふうなことでここに示しているということで、ここでもほぼ終わりかけているものもたくさんありますので、そこをもう一回、学校側というか、我々も整理して、このスケジュールのことについては、今ここまで済んでいますよ、あとここが課題ですよというところを、もう一度しっかり、また、地域の皆様、それから議員の皆様にもお示しできればと思っております。

○6番（奥 好生議員）

もうちょっと分かりやすい義務教育学校の内容をですね、もうちょっと分かりやすい資料を作って、12月議会までには配布をお願いしたいと思います。

あと、学校給食センターについても、大変いろいろ国の動向とかもあるということでしたので、これも早急に進めていただきたいと思います。

次の5点目、教員住宅の管理についてお伺いします。

先ほども申しましたが、天城町に転入してくる教職員にとっては、天城町は魅力的な教育現場、あるいは魅力的な住環境でないといけないわけですよね。そうじゃなければ、徳之島町には住宅がいっぱいありますので、徳之島町に住んだりします。

そういったことも含めて、また、教員住宅は、敷地の広い教員住宅もございます。そういったところの管理については、私は、やっぱり教育委員会が管理する以上は、教育委員会のほうもしっかりと管理をすべきではないかと思えますけども、再度、教育長のお考えをお尋ねします。

○院田 裕一教育長

その管理、例えば、どこかが壊れたとかですね、そういう、大きな木があって、どうしても切れないとか、そういうふうなところは、もちろん私たちが、教育委員会が責任を持って、家賃を頂いていますので、そこは貸す方としたら、当然のことでやっていきますけども、奥議員がおっしゃっている、例えば、環境整備というふうなことでよろしいですかね。例えば、草をはらうとか。そういうことは、やはり住んでいる方が、やっぱりコミュニティーをつくって、自分たちでやっぱりやるというのが私は基本的なことだと思っております。よろしいでしょうか。

○6番（奥 好生議員）

庭の草は取る人は取るでしょう。学校の子供たちの、学校の子供中心に、いろいろ授業とかそういったものに、いろいろ熱心な人は、家に帰ってもやる、あるいは、夜遅くまで学校に残って業務をやる先生もおられますよね。

私が言いたいのは、教員住宅全てですよ。例えば、教育住宅の木造の教員住宅の

濡れ縁、ベランダ、あるいは住宅の周りの塗装、そういったものも定期的にやられているのか、あるいは瀬滝の住宅に行きますと、この前、課長に言いましたけども、住まいから離れたところにプロパンガスを置いております。そこの建物の周辺は草だらけでした。私が行って、初めて何日か後には刈ってありましたけども、草はそのまま置き放しだったですね。

そういった全てのことについて、教育委員会として、目配り、気配りをして、天城町に住みたくなるような魅力ある住環境にしていきたいということなんですよ。

○院田 裕一教育長

塗装とか、そういうガスボンベの周辺とか、そういうところは、我々の責務でございます、そういうところは。

ただ、草はらいとか、草がボーボーになる前に、やはりやっていただくと。やはり一社会人としてですね、そこは私はもう、教育者としては、当たり前なことだと私は思っていますので、今回各学校に教職員、例えば、自分の校区に住んでいる教職員住宅を使っている方もいます。でも、管理職の目の届かない、例えば、別の校区の教職員住宅に住んでいる方もいます。

ですけれども、やはり私としたら、私たちもしますけれども、やっぱり学校としても校長としても、校長も人的管理というところもありますので、その一環として、ぜひ教職員住宅、自分が住んでいる教職員住宅も地域の方々から、「いつもきれいにやってくれているね」とかそういうふうに思われるようなことを、ぜひやっていただけるように、ぜひ声かけを、これからちょっとしていただきねという話もしているところでございます。

ですので、今議員がおっしゃったように、例えば、地域コミュニティーと一つになって、例えば、奉仕作業のときに、どんどん出てくるような教職員が一人でも二人でも増えてくれば、あなたたちが住んでいるところも一緒にしようかなとか、そういうふうに地域の、また応援ももらえるのかなと思ったりもしていますので、確かに女性の先生方は、なかなか草はらい機を使ったりとかいうことは難しいと思いますけれども、そこはできるだけ、例えば、草が大きくなる前にちょっと取ってみるとか、そういうふうにやっぱり目配り、聞配りするというのは大切だと思いますので、私たちも完全に、もうそこは、あなたたちがやることよということではなく、助言とかそういうことは、この後、ぜひやっていければなど、いきたいなと思っております。

以上でございます。

○6番（奥 好生議員）

最後に一つだけお尋ねします。

教育長としては、町外から来る転入教職員に対しては、教育現場もしかり、教員住宅の住居環境もしかり、魅力ある住居環境であるべきだとは感じていますか。

それと、教育委員会としても、ある程度、年何回か点検をしたり、住宅に住むときの契約書の中に、自分の庭の草ぐらいは取るような指導は、今後、徹底されるかどうかお聞きします。

○院田 裕一教育長

住宅との入居とのその中に、確かにそういうところは、しっかりとうたわれていないというところがございます。そこは多分、今までそういう規則を作った方々の中には、そういうことは当たり前だろうというふうなことが、もしかしたらあって、それが今の時代とまた変わってきているというところもあります。

今、議員がおっしゃる、本当にこの塗装とか、ウッドデッキとか、そういうところは、また予算がかかりますけども、計画的にやって、そしてまた、教職員の皆様に、本当に住みやすいというか、そういうところは少しでもできるようにやっていきたいと思います。

ただ、うちの教職員住宅、ほかの町の先生方も入ったりして、結構住みやすいなという方もいますので、そういう方々の声もしっかり大切にしながら、今後とも、議員がさっきおっしゃったような、そういうところは、しっかり、またやっていければなと思っております。ありがとうございます。

○6番（奥 好生議員）

ぜひ、来年度の天城町への転入教職員で他町に住む教職員がいないように、ぜひ頑張ってくださいと思います。

続きまして、6点目、学力向上対策と教科セミナーについてでございますが、昨年から気になっているのは、やっぱり教科セミナーの小学生のほうなんですけどもね。学ぶことと学ばないこと、やっぱり世間でよく言われますよね。学ぶことによって、思考力や判断力の向上、他者との対話や議論の土台、予期せぬ場面での応用力が期待できます。学ばないことによって、選択肢の狭まり、進学、就職、転職など、誤った情報に流されるリスクもあります。自己表現や交渉力の低下も想定されます。

そういった意味を含めると、小学生の教科セミナーをやめたということは、やっぱり将来に大変な影響があるものだと思います。

徳之島町では、大分前から各集落でやっております、土曜日ですね。しかも、講師は、学校の教職員は一人もいません。役場職員とか地域の方などです。いろんな他の市町村辺りも、いろんな知恵を出してやっているわけなんですけどもね。

徳之島町は、夏休み間は、東大生を何名か呼んでワークショップをしたりもやっています。今年の夏休みもやられたそうです。いろんな知恵を出して、小学生にも学ぶ環境を整えてあげるべきではないかと思うんですけども、そこら辺について、教育長はどうお考えでしょうか。

○院田 裕一教育長

小学生に学ばせるというのは、それは当たり前のことです。議員が今おっしゃったように、やはり。私たちは今、先ほどから申し上げました、今とにかくその教科セミナーにつきましては、一般の方々とか役場職員とかにも声かけはしていますけれど、なかなか講師が集まらないという実情が、一方であります。今、教科セミナーは中学生だけでやっているわけですけども、数年前の議会でも、いろいろと話題になった、小学校まではすごくいいのに、中学校になってどうしてここまで落ちるんだろうというところがありましたので、私たちは中学校に舵を取って、ちょっとしばらくやってみようというようなことで、この一、二年、結構、中学生もすごく学力が高くなってきたので、やはり今議員がおっしゃるような、小学生に何か学びの場、例えば、今、うちが東大ネットアカデミーをやっていますけれども、実際、これも中学生に対象にやっていますけれども、年に1回、この間は現役の東大生が島にやってきて、どんな子供たちがネット、オンラインの向こうに実際にいるのかなというふうなそういうプログラムもあります。それを私聞いたときに、小学生にもやってもどうなのかなということも出ていますので、そういうふうにといろいろとまた知恵を出して、ぜひまた小学生の学力の学びの場も考えていきたいなと思っております。

以上でございます。

○6番（奥 好生議員）

先ほどちょっと言い忘れましたけども、徳之島町は中学3年生を対象に、オンラインで進学向けの塾をやっています。そのオンラインでやってる相手の方は、民間の会社がそういった経営をしまして、その会社と経営をして塾の講師がオンラインでやっています。東大生でないですけど。

伊仙町は、もう四、五年前からもう小学生も一緒に、中学生も一緒に東大アカデミーネットワークでやっているわけです。だから、いろいろやり方があるわけです。

中学生の学力が上がったというのは、今まで小学生が教科セミナーとかで学力がだんだん上がりつつあって、初めて中学校に来て学力が上がったわけであって、今後5年後、10年後、小学生の教科セミナーがなくなった場合は、中学生が学力が上がるという可能性はもう想定はできないわけです、はっきりと。

やっぱり教育というのは、特に算数などは小学生のときから積み重ねでやってい

かないとなかなか追いつかないということがあるんです。だけど、その学ぶ場をつくれば、半年ぐらいでもうすぐ追いつけますので、ぜひ一日も早く小学生を対象にした教科セミナー的なものも、ぜひ実現できるように頑張っていたきたいと思います。再度答弁。

○院田 裕一教育長

ありがとうございます。

今、徳之島町、伊仙町の名前が出ましたけれども、私たちも実際に、今、結構教育委員会の中でも、社会教育課は結構3町でいろいろやっていますけども、教育委員会の学校教育課の中でもそういう情報をしっかりまたつかまえるなどして、他町にできるのであれば私たちもできると思いますので、そして学びの場をしっかりとくっていき、そして、またやっぱりこれは学校から押し上げがないと、なかなか申込みもしませんので、やっぱり学校との連携をしっかりとしながら、天城の子供たちの将来をしっかりと支えられるような、そういう施策をこれからまたやっていければなと思っております。ありがとうございます。

○6番（奥 好生議員）

学校からの押し上げということであります。先ほども言っているように、町内の教職員の働き場、住環境に魅力があれば、天城町のために頑張っていこうと、教科セミナーにも頑張って協力してあげましょうという気持ちになるわけです。全てが連携してるわけなんです。そういうところをしっかりと考えてやっていただきたいと思います。

3人の教育長、総務課長、社会教育課長、どうぞ意見を言ってください。そういった考え、どうしているのか。

○中 秀樹社会教育課長

お答えいたします。

奥議員のおっしゃっていることは分かりますが、教育委員会としましては、やはり学校教育、社会教育行政ありますが、我々としては、学力向上に向けた環境づくりをつくるのが、やはり一番大事だと思っております。

教科セミナーについても、先ほどから教育長のほうと議論がありましたが、やはり講師の先生方の確保等も率先して教育長のほうは行っておりますし、また、子供たちの学力を上げるのも教育委員会の中では必要になってきますから、その環境づくりを教育委員会としてはやはり行っていき、学力向上につなげていきたいと思っております。

○和田 智磯教委総務課長

お答えいたします。

学校教育といたしましても、子供たちが学び、そして健やかに成長できるように環境を整えるとともに、町外からいらっしゃる先生方が、天城町に来てよかったと言えるような環境づくりに努めてまいりたいと思います。

○院田 裕一教育長

私も学校に行っている先生方といろんな話もしますので、また天城町のよさ、そして課題、こういうところも各先生方からも、もちろん管理職も通してですけども、もっともっと広く本音を聞いて、その本音に課題がもしあれば、そこを改善して、本当に天城に住みたいなど、そういうふうな一人でも教職員を増やし、そして子供たちのために頑張っていきたいと、そういう前向きなそういうふうなのができるような課題解決というか、そういうところをぜひ、また今2人の課長が答弁しましたけども、課長等と力を合わせて、また町長部局とも力を合わせてやっていければなと思っております。

以上でございます。

○6番（奥 好生議員）

最後になりましたけども、私、学力のことばかり言っているんですけども、スポーツも大事です。

先ほど、夏の甲子園で優勝した沖縄尚学、調べてみますと、沖縄で偏差値もナンバーワンです。そういった学校です。学力もスポーツも大事です。やっぱり知徳体と言います。ぜひ、スポーツ振興にも学力も一緒に頑張っていっていただきたいと思います。

以上で、私の一般質問は終わります。

○議長（上岡 義茂議員）

以上で、奥好生議員の一般質問を終わります。

しばらく休憩します。3時15分より再開します。

休憩 午後 3時03分

再開 午後 3時15分

○議長（上岡 義茂議員）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、議席番号9番、久田高志議員の一般質問を許します。

○9番（久田 高志議員）

こんにちは。早速でございますが、先般の通告に従い、一般質問を行いたいと思います。

まず、1項目め、水産業振興拠点施設について。

うおっちょの運営状況はどのようになっているか。

2 項目め、農政について。

有害鳥獣捕獲実施事業の実施状況及び補助金の支給状況はどのようになっているか。

3 項目め、道路管理について。

町道、農道の管理は適切に行われているか、また、危険箇所（県道を含む）の点検はどのように実施されているか。

4 項目め、政治姿勢について。

防災センター未竣工（虚偽報告）に関わる住民訴訟の一審判決を不服とする控訴理由の内容はどのようになっているか。

その2点目、控訴による本町のメリットは何か。

以上、4項目5点について質問をいたします。

執行部の誠実で責任ある答弁を求め、1回目の質問を終わります。

○議長（上岡 義茂議員）

ただいまの質問に対し、答弁を求めます。森田町長。

○森田 弘光町長

それでは、久田議員のご質問にお答えしてまいります。

1 項目め、水産業振興拠点施設について。

その1、うおっちょの運営状況はどのようになっているかということでございます。お答えいたします。

令和6年度の実績におきまして、売上げは1千486万7千円、対前年比426万1千円の売上増となりました。

しかしながら、施設の運営費におきまして、人件費の増、また物価高等の影響による需用費の増により、3千666万4千円の支出でございました。

運営状況につきましては、まだまだ芳しいものではございませんが、収支のバランスに留意しながら、水産業の活性化を図るという観点から新商品の開発も進め、また、市場拡大、また地場産業の普及による観光へのPR、雇用の確保、そして漁業者の所得向上を目指していきたいと考えております。

2 項目め、農政について。

その1、有害鳥獣捕獲実施事業の実施状況及び補助金の支給状況はどのようになっているかということでございます。

お答えいたします。

現在、町の単独事業としまして、イノシシ1頭2万円、カラス1羽1千円の有害鳥獣捕獲補助金を、その実績に応じて交付をしております。

令和6年度は987万8千円を交付いたしました。

また、国の事業としましては、緊急捕獲等対策事業費として、4月から2月までに捕獲されたイノシシを対象に、ジビエとして9千円、成獣、大人です。——7千円、幼獣1千円の単価で、国からの交付決定額に基づき交付をしております。令和6年度は102万円を交付いたしました。

3項目め、道路管理について。

その1、町道、農道の管理は適切に行われているか、また、県道を含みますが、その危険箇所の点検はどのように実施されているかということでございます。

お答えいたします。

町道や県道につきましては、可能な限り全域に目を向け、点検管理に当たっているところであります。

県道につきましては、鹿児島県徳之島事務所と連携し、必要な対応を取っているところでございます。

適切かというところの判断はなかなか難しいところでもあります。職員また町道等の環境整備作業員、現在6人雇用しておりますが、そして、またその時期時期、随時、短期勤務雇用職員にて、町道、県道の管理作業に取り組んでおります。

農道の管理につきましては、町民や区長さんからの情報提供を受け、職員で現地を確認し対応しております。

また、多面的機能支払い交付金事業の協定区域内では、各集落の水保全会において、農道等の点検及び補修を行っているところでございます。

町内全域となると、見落としている場所もあるかとは思いますが、町民の方々には、車両の通行に支障を来すような箇所など、役場へ情報提供をお願いいたします。

4項目め、政治姿勢について。

その1、防災センター未竣工（虚偽報告）に係る住民訴訟の一審判決を不服とする控訴理由の内容はどのようなになっているかということでございます。

お答えいたします。

天城町防災センター新築工事に係る損害賠償等請求事件について、令和7年6月4日付で、鹿児島地方裁判所より判決の言い渡しがありました。その判決において、被告は天城町でございますけれども、被告の主張が認められなかった部分について、再度、上級審において判断を求めるため、6月17日の令和7年第2回天城町議会臨時会において、控訴の提起についてという議会の議決をいただいたところでございます。その後、本町が委任した弁護士を訴訟代理人と定め、訴訟手続を行っているところでございます。

4項目、政治姿勢について。

その2、控訴による本町のメリットは何かという質問でございますが、お答えいたします。

メリット、デメリットという考え方は持っておりませんが、まずは、私たちが主張する内容が控訴審で認められるよう取り組んでまいりたいと考えております。

以上、久田議員のご質問にお答えいたしました。

○9番（久田 高志議員）

1回目の答弁をいただき、順次質問を続けていきたいと思っております。

まず1項目め、水産業振興拠点施設うおっちょの運営状況について、まだまだ厳しい状況であるという1回目の答弁をいただきました。

まず、原点に一度戻ってみたいと思っておりますが、この事業の当初の目的、どういった目的を持ってこういった事業を計画して実施をしてきたか、まず目的があらうかと思うんですが。大丈夫ですか。当初の目的、お願いいたします。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

当時、私は課長ではなかったもので、正確にはちょっとあれですけども、コロナ禍に入った段階で、当初の計画では、漁業集落さんが使用されている加工場の衛生的な問題、あと当時のコロナの関係で手狭だったこともあり、加工場の新設でコロナ交付金を活用して進めていた事業であったというふうに伺っております。

そういった加工場を造る過程の中において、様々な議論がなされて、今の現在のようなイートインスペース、食事を提供できるスペースですとか、当然ながら加工場の施設も併設されていますけども、最終的にはそういったところで落ち着いて、今の現状に至るというふうに考えております。だと思っております。

○9番（久田 高志議員）

加工施設の建設が目的というよりかは、当初の目的というのは、漁業者の所得向上が最大の目的だったのではないかと考えておりますが、いかがでしょうか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

大変失礼しました。おっしゃるとおりでございます。

○9番（久田 高志議員）

それでは、まず、その漁業者の方々のほうから質問してみたいと思っておりますが、このゆいの里漁業集落、組合員数が何戸、そして実際に出漁されている方々が何名ほどいらっしゃるか、数字があればお願いしたいと思います。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

今現在、組合員数の正確な数字はこちらにちょっと控えておりません。申し訳ございません。

現在、動いている漁業集落さんにつきましては、正確ではないですが、十数名程度いらっしゃるというふうに伺っております。

○9番（久田 高志議員）

町内で、もう実際に漁に出漁されている方が十数名しかいらっしゃらない現状ということでよろしいのでしょうか。

そういった中で、実際に、この水産業加工施設うおっちょを活用されている漁業集落の方々は何名ほどいらっしゃるのでしょうか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

令和6年度の実績でいきますと、卸されている方は9名。若干小規模の出荷者の方はちょっと把握はしていないんですけれども、十数名の方がうおっちょのほうには納めているという形になります。

○9番（久田 高志議員）

十数名とおっしゃいますと、今実際に出漁されている方々、ほぼ全ての方が水産業加工施設うおっちょに納入されているという認識でよろしいのでしょうか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

今、活動されている全ての方ではないと考えております。令和6年度の実績におきまして、小規模の出荷者がどのあたり数値があるのかちょっと把握はできていないんですけれども、全ての方ではないというふうには思っております。

○9番（久田 高志議員）

本来であれば、漁業集落全ての組合員の皆さんの所得向上につながることを目的としていただきたいわけなんですけれども、実際、この水産業加工施設を運営し始めて2年少しですか、実際にこの事業の目的、漁業者の所得向上にはつながっていている状況でしょうか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

令和6年度の実績で、漁業集落さんの所得向上というところなんですけれども、実際の申告等は、プライバシーの関係では確認はできていないんですけれども、令和5年度と令和6年度を比較したときに、卸している量が金額も増えておりますので、なおかつ、シビとかカツオという足の速い魚は、これまで徳之島町にある競りには翌日に卸すということがあったそうですので、そのあたりが漁に出て水揚げさ

れて、すぐうおっちょのほうに卸すという形がありますので、そのあたりが大分増えておりますので、間違いなく漁業者の所得向上にはつながっているものと私は感じております。

○9番（久田 高志議員）

正確な数字がないので、なかなか割り算もしにくいところなんですけど、十数名の方々は個別に市場にも出荷をしたり、個別に販売をされたりとかそういったことも行われているわけですか、全量買上げをされているんでしょうか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

基本的には、主にシビとカツオがメインどころになりますけれども、例えば瀬物、底物ですか、そういったのも仕入れておりますので、そのあたりも全て。ただし、多少、漁をされて魚が傷んでいるですとか、そういったものは、今現在、極力仕入れないようにしておりますので、品質保持の観点も含めて、そのあたり、令和5年度からそういった取組を始めたところ、漁師さんもかなり、今、そういったところを改善していただいておりますので、今、そういった状況になります。

○9番（久田 高志議員）

分かりました。極力じゃなくて、傷んだ魚はやっぱり仕入れないようにしていただきたいと思います。

増えていると感じているようです。令和5年、令和6年度、この令和5年度は10ヶ月分の買い上げ価格だと思います。令和6年度1年間を通じて、うおっちょの魚の買い上げ額が850万ほどなんです。果たしてこの金額が、十数名の漁業集落の方々に、多い少ないあるかと思いますが、割り算を単純にするとそんなに多いようには感じないんですが、です。ので、ほかで市場で出荷したり、個別で販売をされたりしているのかなというところの確認でした。

そして、多い少ないは別として、今度はうおっちょの運営状況、実際、経営状況について、少し改善点がないのかなと思いながらの質問にしていきたいと思っております。

令和5年度、あくまでも原材料だけ、魚の仕入れ、米、麺類等で1千110万円、仕入れ価格がです。それに対する売上げが1千60万、実質マイナス50万と。令和6年度、仕入れ額、魚と両方で1千230万円ほど。これに対して売上げが1千486万、これに関しては、原価に対して250万ほどのプラスにはなっていると思います。

これが多いか少ないかというところなんです。価格設定に問題がないのかなと。結局、仕入れた額に1割5分ぐらいを乗せた単価設定しかされていないというよう

な感じなんです、こういったもの、仕入れ価格、販売価格、大体どの程度平均値でいくと設定されているんでしょうか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

すみません、平均値のところはちょっと何とも申し上げられないんですけど、売上げから原材料を見たときの200万、令和6年度は若干売上げが伸びたかなとは思っているんですが、ここはまだまだ改善の余地があるかなとは思っております。

令和6年度、ちょっと物価が途中で高騰した関係もあって、スタートからですけども、販売価格の見直しですとか、そういったところは少しさせていただきました。あわせて、ちょっと失敗もしたんですけど、ポイント制にした関係もあって、例えば、ポイントをもらったから200円割引をもらって、次の日また行ったら700円の消費を500円で買える、またポイントをもらう、そういったちょっと手法を間違えていたところもあったので、今は6年度でそのあたりも改善して、少し売上げとしては上がったのかなと思っております。

久田議員がおっしゃる仕入れについての売上げの販売価格、そのあたりは高いか安いのかというのは、ちょっとすいません、私まだ勉強不足でして、ちょっと判断いたしかねるところでございます。

○9番（久田 高志議員）

大体ランチ価格の設定でいきますと、島内、町内を含めて、大体七、八百円から1千500円程度が、大体昼のランチ価格です。魚ですので、もう少し価格設定を上げても大丈夫じゃないのかなという思いもします。

あとはもう一つ、仕入れのほうです、逆に。これが市場価格の大体平均値と沿っているものなのか、それとも大分設定が離れているのか、それもちょっと気になるんですが、いかがでしょうか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

仕入れ価格につきましても、令和6年度のスタートでは、いろいろ変更させていただきました。令和5年度のスタートもだったんですけども、基本的には徳之島の競りの価格で合わせております。なおかつ、令和6年度につきましても、先ほどありましたとおり、品質の落ちた鮮魚等については、割安の価格で仕入れをさせていただいております。

基本的には品質保持をしていただいております漁師さんの鮮魚を平均価格で仕入れをして、例えば、翌日に水揚げされた鮮魚を卸した場合は、ちょっと平均価格より下の価格で仕入れをさせていただいております。

○9番（久田 高志議員）

その辺の価格設定はしっかりと調査をしながら、やっぱり現況に見合った形に持っていていただきたいと思っております。

あと、これ、以前質問したときにも一度指摘をしておりますけれども、食材の管理等は、今はしっかりとされているという認識でよろしいでしょうか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

令和6年第1回のご質問で同様のご指摘をいただきまして、我々のほうもしっかり、通常の店舗さんで月末の棚卸しがあるというふうな部分がありますので、そういったところをしっかりとできるように、我々も今、務めているところであります。

○9番（久田 高志議員）

分かりました。

そしたら、次、人件費のほうに移っていききたいと思いますけれども、令和5年、1千348万円、令和6年で1千800万と、大体470万ですか、人件費が増えています。理由として、期末勤勉手当の支給をしているというふうに備考欄に書かれておりますけれども、人員総数、令和5年、令和6年、そして今現在の総数、短期等、アルバイト等を入れたりして、総数が5、6、7でどのように変動したかお尋ねしたいと思います。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

令和5年度は、当初7名でスタートしました。会計年度職員の方が4名、短期の方は2名ないし3名でした。令和6年度も8名でスタートしました。ですが、令和6年度12月いっぱい、会計年度の方がお一人退職されましたので、そこからは7名で運営をしております。今、令和7年度につきましては、会計年度職員が3名、短期のアルバイトの方が4名ないし3名で動いております。

この短期の方につきましては、平均時間としては4時間程度のパートタイムで動いていただいております。

○9番（久田 高志議員）

会計年度と短期の7名体制ということで、これは現在、この責任者的な存在はどのようなになっているんですか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えします。

失礼しました。令和6年度、当初その辞めた方が食品衛生管理の資格をお持ちでしたので、そのときはその方に運営をしていただいたんですが、その後、令和7年

の7年から、我々商工水産観光課の職員のほうで、常駐ではないんですけれども、随時対応しているところでございます。

今、令和7年度につきましても、職員のほうが、常時ではありませんが、週3ないし4日のスパンで対応しているところでございます。

○9番（久田 高志議員）

都合8名体制という認識でよろしいですか。日によったり、短期がいたり、相対で言えば8名ということよろしいですね。

あとは、雇用する時間帯です。営業時間があろうかと思います。あとは、時間で雇用されている方々、例えば4時間とか。大体、営業時間と短期の方の雇用時間を教えていただきたいと思います。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

基本的に、通常のオープンが11時からですので、営業時間が11時から6時までに今設定しております。お昼どきの準備に合わせて、短期の方、お二方、調理師の免許をお持ちなんですけども、10時から2時の間で、今、2人は調理をさせていただいております。

会計年度の3名については、9時からオープンの準備に合わせて、掃除ですとか、調理に入らせていただいております。

あともう1点が、これは常時ではないんですけど、もう一方が、移動販売を行っておりますので、移動販売を行うために、2時から6時の間で入らせていただいております。

○9番（久田 高志議員）

分かりました。

11時からの営業に対して、調理される方が10時から2人、移動販売される方が14時から16時は、適正な時間帯かなと思ったりもするんですが、朝9時から何名ですか、清掃とか。9時から夕方6時までフルでいらっしゃるということですか。何名いるんでしょうか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

会計年度職員の3名でございますが、3名でシフト制を取っておりますので、基本的には9時から16時なんですけれども、その間の中で、例えば10時から16時ですとか、9時から出勤された方は17時半までですとか、そういったシフト制を組まさせていただきます。

○9番（久田 高志議員）

申し上げたいのが、そんなに汚れるんですか。そこまで清掃を、11時オープンに対して3時間も前から出社をするという、そういったところ、少し時間帯の調整、やっぱり忙しい時間帯に集中して勤務していただくような、そして、少し手の空くような時間帯に、お客さんが昼時間過ぎると多分減ってくる時間帯もあろうかと思っています。そういったときに清掃をするとか、そういった工夫が大事だと思うんです。

あそこ、キャパといいますか座席数、何名ぐらい入るんでしょうか。

○梅岡 拓司商工水産観光課長

お答えいたします。

座席数としては30名は入ります。

○9番（久田 高志議員）

座席数30に対して、加工品も販売しているのももちろん理解はいたします。ですが、少し時間帯の調整とか、民間だと多分そういった経営の時間帯で7名とか8名とか、多分雇用されないと思うんです。

やはり、厳しいようではけれども、漁業者の所得向上のためにやはり事業を立てたわけです。これが当初の目的で、雇用創出とか、そういった目的が全面的にあれば、そういったやり方でもよろしいかと思うんですが、やはり毎年度2千万を超える赤字が出ているわけです。少しずつでも改善をしていかないと、結局、事業自体が1億程度でしたっけ。あと3年もすれば、もらったお金を全て吐き出していくような状況になりそうですので、もうちょっといろんな工夫をして頑張っていただきたいなど。午前中もありました、島議員のほうから。やはり赤字はやっぱりよろしくない。これ恐らくもう民間であれば、明らかに倒産している状況なんです。

農産物加工センターは公募のほうをされたようです。やはりこういったところも、そろそろそういった方向を考えて民間委託をするか、本来の目的である漁業者の方の所得向上という思いがあれば、あくまでももう加工販売のみに徹底したりをして、残ったというか、こうやって今吐き出しているこのお金を、漁業者の方に、実際に出漁されている方々に、出漁回数に応じて助成金に変えていくとか、何かしらの方法を考えていかないと、漁業者の所得向上につながっているようには思えないわけです。

こういった質問をする裏には、漁業集落の中でもやはり不協和音が多少あるように聞こえているわけです。その経緯は、いろいろな理由があらうかと思いますので、何とも申し上げませんが、ある程度はそういった声にも耳を傾けたりして、なるべく一緒に運営していけるような体制づくりには、また、課のほうで努力をしていただきたいという思いでございます。

そういったところで、こういった質問は、また今後も続けていくかと思っております。

れども、できれば年度を決めて決算報告なり、そういったものを数字でちゃんとみんな把握していけば、少しずつでも改善点を見つけていけると思いますので、ぜひそういったことにも取り組んでいただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

○森田 弘光町長

今、議論をしているところですけど、経営改善にはこれからもしっかりと努めていきたいということと、また来年3月、4月には新しい施設も開館しますので、そこら辺の中で、議論のとおり利用者が多くなるのかなという期待をしております。それによって、ひいては業者がもっともっと活躍していただけたらという願いがございます。

また、もう一つ、今、議論がなかったんですけど、利用者が非常に今のこの世の中、決済を現金でやっているもんですから、P a y P a y ですかクレジットでも利活用できるような形で、今、準備を進めておりまして、当然、これから観光客を含めて来島者が多くなります。そういった方々は、今、ほとんどキャッシュレスですので、そういったことについてももしっかり対応していければなと思っております。

また、ちょっと今触れたんですけど、移動販売ということで、例えば当部ですとか三京ですとか、なかなかそういうお魚が手に入らないようなところ、そういったところにも移動販売ということで、令和7年度、冷蔵庫付きの軽貨物というんですか、それを新しく入れましたので、それで今販売をしております。非常に、そういった地域の方々も、今、好評というふうに伺っておりますので、そういった方々へのサービスもまたこれから充実していければなと思っております。

いろんな大変課題の多い施設でございますけども、いろんな漁業者の収入、所得向上、また消費者の方々に喜ばれる、そういうウィン・ウィンの何か施設ができればなと考えておりますので、またこれからいろんなご意見とかをいただければと思います。

○9番（久田 高志議員）

ぜひ頑張って、必要経費ぐらいは生み出せる、利益が出なくても結構です。ウィン・ウィンになるように、歳入歳出も頑張りたいと要請をして、次の質問に移らせていただきます。

道路管理についてということで、これも午前中、島議員のほうから少しございましたけれども、一部（発言するもの多し）ごめんなさい。1つずれておりました。

農政についてです。有害鳥獣捕獲実施事業についてということで、これは資料請求も頂いておりますので、その資料を参考にしながら質問を続けていきたいと思っております。

イノシシについて、主だって質問していく予定でございますが、町単独事業とし

まして、イノシシ1頭2万円という金額が設定された理由です。令和元年度に有害駆除と有害の時期を外れる通常の狩猟期間に対して1万円ということが始まって、令和2年度に、全期間含めて1頭2万円というふうに設定がなされているようでございます。

この2万円という設定になった理由というものをまずお尋ねしたいと思います。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

正確にはちょっと伺っておりませんが、当時、山猪工房の運営を猟友会で運営するということになっておりました。その中で、協議会の中で話し合われて、1頭2万円となったというふうに認識しております。

○9番（久田 高志議員）

分かりました。

この件も午前中ありました。山猪工房も厳しい運営状況であると。こういった中で、裏にはやっぱり農業被害が軽減されているというそういった面もあるかと思っています。ですので、先ほどの漁業集落の加工施設の問題も、漁業者の所得が上げれば、まだ我慢もできるんじゃないかなという部分があります。そういった中で、令和2年、令和3年、令和4年と、順調にと言ったらおかしいんですが、捕獲頭数が伸びてきております。

令和5年、一昨年にどうも問題が発生しているようでございます。当初の予算が2月以降枯渇というか、3月最終の年度末のときに予算が足りなくなったということで、1頭当たり1万2千円を、2万円支払うべきものを1万2千円、残ったお金を割り算して支給したようございます。こういったときに、補正対応とかそういうものは間に合わないものなんでしょうか。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

予算につきましては、3月の実績が4月以降に入ってきます。本来であれば、頭数を見据えて、多めに補正なりを組んでおくのが正しい予算の組み方だったと思っております。

令和5年の3月に36頭入ってきております。実際、その時点で予算が足りなくなったということで、残っている予算で頭数を割って、本来であれば2万円を支給するところを1万2千円で支給したと伺っております。

○9番（久田 高志議員）

こういった場合、36頭ですので、8千円を掛けると28万8千円あれば、全ての方に最終年度末まで2万円支給できたはずなんです。こういったものというは、

どこか課内から流用したりとか組替えとか、そういった方法でも対応できない。二、三十万円ぐらいの予備費的なものはどこかにあるような気がするんですが、過去の話ですが、今後こういったことがあった場合、そういった対応ができるのかちょっと聞いてみたいかなと思います。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

年間の捕獲頭数を確認しながら、最終補正、12月補正なりで、多めの捕獲頭数を想定して、予算が足らなくなるよう対応していきたいと思っております。

○9番（久田 高志議員）

分かりました。その答弁で、ちょっとまた質問がしにくくはなったんですが、令和5年のときに、460頭の実績がありました。そして、令和6年度481頭の捕獲で、問題なく2万円が支給されているんですけども、令和7年度当初計画で、また31頭分、450頭まで計画が減っているわけです。ですので、これが頭数が増えたときに対応できるのかなと心配するところですが、いかがでしょうか。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

捕獲計画は3年に1度、県のほうに提出しております。今回、R5、6、7の捕獲当数は、R3、R4年度に各年450頭で提出をしております。

○9番（久田 高志議員）

これ、予算的な措置はどうなっているのでしょうか。計画どおりの予算を準備しているのでしょうか。令和6年度が450頭と31頭増えているので、31頭分お金が足りなくなるような気もしたんですが。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

予算は実績に応じて立てております。令和6年度も補正で対応させていただいているところでございます。

○議長（上岡 義茂議員）

しばらく休憩します。4時10分より再開します。

休憩 午後 4時00分

再開 午後 4時10分

○議長（上岡 義茂議員）

休憩前に引き続き会議を開きます。

久田議員。

○9番（久田 高志議員）

それでは、引き続き質問を続けていきたいと思います。

令和7年度450頭の計画ですけれども、捕獲頭数が上振れするときには、補正で対応するという認識でよろしいでしょうか。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

捕獲頭数を毎月確認しながら、12月頃に捕獲頭数を予想し、補正で対応していきたいと考えております。

○9番（久田 高志議員）

狩猟者の方も漁師の方々も安心して漁に行けるのかなと思います。

あと、もう1点なんです。国のほうからの事業の緊急捕獲等対策補助、これが令和元年度200万6千円、2年度172万1千円、令和3年度230、令和4年度230と続いてきた中で、令和6で100、令和7年度においてはもう85万2千円まで減額をされております。

今の令和7年度の計画頭数が450頭に対して132頭分、計画でいくとジビエ60、成獣40、幼獣32頭という割当てで、132頭分しか予算がないと。318頭分計画から乖離をしてくるんですが、助成金の支給時期、2月で締めて一括で支払うのか、年度途中途中で支払っていくのか、こういったやり方をされているのでしょうか。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

支給時期は、2月までの集計が終わりまして、3月に一括で支払いを行っております。

○9番（久田 高志議員）

そこが問題のようでございます。狩猟者の方から、やはりそういった声をいただきます。やはり皆さん、国からの助成金が減額されていることを知らない方々がほとんどです。そして、支給される、自分はこっだけ捕ったよと、幾ら入ってくると、大体概算で計画をしているわけです。ところが、支給されるときに何十万分足りない。要は計画が計画できなくなっているような状況なんです。

あとは、この幼獣と成獣の違い、ここも何かちょっと見た目判断みたいなのがあったらしくて、先日課長のところに行きましたけれども、要は模様があるないぐらいはどっかでしっかり線を引かないといけないんじゃないかというところで、お話をさせていただきました。

これ、やはり言い方は悪いですけど、捕れ捕れ詐欺じゃないけど、これを当てに

して捕っていたのに、入ってこないみたいな状況があるわけで、やはり不満があるんです。やはりお金を当てにしている部分もやっぱりあるわけですので、こういったことに対して何か対応ができないのかなと。

もし、もうこの計画頭数で達した時点で打ち切りますと狩猟者の方々に伝えたときに、猟をするかしないかというそういった問題も出てくるわけなんです。こういったところの対応、もうちょっと何か方法はないのかなという思いがありますがいかがでしょうか。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。

現在、年度当初に国のほうから補助金の額が内示されます。この計画頭数なんです、年間を通して4月から2月まで捕れた分の、ジビエだったら60頭ではなくて案分をして支給をしております。ですので、成獣を持ってきた方が何名いて、そのうちの何割、この人が何割だったら成獣の40頭分に振り分けをして支給をしているという形になります。

今、ジビエを優先しておるんですが、被害防止のために捕獲を進めるためではなく、捕獲鳥獣を地域資源、ジビエとして利用し、有害鳥獣をマイナスの存在からプラスの存在に変える取組を全国的に今進めているところでございます。ジビエ利用拡大の推進を図ることで、農作物被害の低減が期待でき、農家所得の向上も期待できることから、ジビエを優先しております。

また、農水省のジビエ利用の目標も、R5年2千729tから、R11年度までに4千tと目標を掲げているところでございます。

ですので、取りあえずジビエを優先して、その割合もジビエが多くなっております。

○9番（久田 高志議員）

国の指針はもちろん理解するところなんです。やはりジビエの取扱いについては、我が天城町、郡内でもかなりの先進地になっていると思っております。その中で、やはりふるさと納税の返礼品で足りないとか、そういったことも耳にするわけでございます。どうかもう少し頑張れないのかなと。

要は、捕獲することによって農作物の被害も減りますし、返礼品としてのそういったところも強くなってくると思います。結局、全部当ててもジビエに持ち込まなくなる可能性があるわけです。結局その計画頭数を超えたら、もう持ち込んでも何ももらえんわけですから。どうかそこは頑張っていただけないのかなと。

これちょっと予算の組み方がちょっと違うんですけど、徳之島町は町単で1万5千円、そして5千円はJAさんのほうから、やっぱりサトウキビとか農作物の被

害軽減対策として、5千円はJAのほうから出ているようでございます。それで1頭当たり2万円という町単とJAの対策で、本町と同じような2万円の支給になっております。

その中で、今度国からの捕獲対策事業に関しては、徳之島町はこの計画を超過した分、全て町単の予算で賄っているというようでございます。町長、ちょっと一踏ん張り頑張れないでしょうか。

○禰 清次郎副町長

先ほどから農政課長がお答えしておりますが、これまで有害鳥獣だったものを、地域資源としてマイナスからプラスにしようという試みで地域活性化を図っているわけでございます。

国の予算等が枯渇した後、やはり狩猟者のモチベーションなど、また農作物の被害等を考えると、他町のそういった事例も勘案しながら、前向きに検討させていただきたいと感じております。

○9番（久田 高志議員）

非常にすばらしい答弁だと思います。農政課長、一言、頑張ります。

○上岡 久人農政課長

お答えいたします。隣町がやっているということですので、負けないように天城町も頑張っていきたいと思っております。

○9番（久田 高志議員）

すばらしい答弁だと思います。すっきりした気持ちで、次の道路管理のほうの質問に移っていきたいと思っております。

先ほど、町道、農道、県道、こういった管理もなんですが、危険箇所の点検というか、環境整備の作業員の方々が作業ついでに確認をしている等々ありましたけれども、これ、先日の座談会の中で、ちょっとこの答えでいいのかなというのがございましたので、ちょっと苦言を申し上げたいと思っております。

どここの道路のカーブミラー、あそこのカーブが見にくいと、危ないと。何とか設置していただけないかというその住民の声に対して、いやと、自分たちもそこはそう思っているんだと。それはないだろうと。皆さんが帰られた後、そう思っているんだったら、言われる前にやっってくださいよということがございました。本当に気になるんです。何かそういった町の風習、何か職員がやっぱり百数十名、会計年度を入れると300名近い職員が何かしら気づくはずなんです。どこかしら。例えばカーブミラーが曲がっていて見にくいよねとか、汚れていて見えないよねとか、先ほどもありました、ガードレールが浮いているとか。そういうのを職員が気づいて報告をすると何かいけないルールがあるのか、もしくは、悪いすねた言い方

をしますと、町民、住民がお願いしてくるまで待っているのか、非常に気になりました。

ガードレールに関しても、県道なんかもそうです。さびていて危ない、ああいう声が出るまで皆さん気づかないものなのかなと。そういうことがありますので、月1回とまで言わないですけども、何かしらそういった気になるところを職員間でまとめて、わざわざ見に行かなくてもいいんです。ただ出勤ついで、どっか行くついで、ちょっと気になるところがあったときに、何か取りまとめて対策をしていく方法がないのかなと思った次第でございますが、こういった質問はどなたが答弁いただけるのでしょうか。

○禰 清次郎副町長

やはり常々町長も安心・安全で住みよいまちづくりという話をされております。そういったことから、職員においても、災害が来る前、平時からそういった危険箇所、そういったところ、通勤時または休日でも、気づいたところ、また担当部署以外の職員全職員、そういった体制をつくるように、日頃、訓示といいますか指導はされているところでございます。

そういった中で、やはり不行き届きな点があったことは否めませんので、今後、その辺はしっかりと注意をしていきたいと感じております。

○9番（久田 高志議員）

注意もなんですけど、そういった情報を共有できる体制づくりをしていただけないですかというのが本来の趣旨なんですけど。

○禰 清次郎副町長

議員がおっしゃるとおりだと思います。そういった関係課だけでなく、全庁体制でそういった情報を共有できる体制を整えてまいりたいと感じておりますし、そういったのを発見した場合に、速やかに改善できるよう努めてまいります。

○9番（久田 高志議員）

ぜひ、そういったことは、気づいたところで大丈夫です。もちろん全部網羅して気づくことは無理だと思いますので、そういった、また我々が気づいたり、町民の皆さんが気づいたりしたところをまたしっかり対応していただきながら、町長もいらっしゃいましたので、思ったと思います。あのような回答だけは控えていただきたいと思いました。

あと、町道から先行きましようか。その町道の管理、もちろん路面の異状もあります。そして、午前中、島議員からもございました集落内のやはり狭い道路の中に、もう木が大きく生い茂って、極端な話、サトウキビのそういった期間になると、キビ輸送車が何か入れなくなっているようなところもあるように伺ったりして

おります。

そういったところを、まず1ヶ所目、これありました。みんながみんなそうできるものでもないと思いますが、やはり高齢者世帯とか非課税者世帯とか、そういった方々のところに関しては、町を挙げてやはり何らかしらの対策、もちろん全部と言いたいところなんです、そこまでやっぱり無理だと思います。やっぱりできる方は、やっぱりそれぞれで対応していかないといけない部分が非常にあろうかと思いますが、もちろんそういった業者を頼んだり、ただ、もうそういったことも明らかに不可能な方々もいらっしゃいます。それを集落のボランティア活動とかでやるにも、もうそろそろ限界点に達しております。

まず、そういった枝木とかそういったもの、道路に邪魔するようなものに対しての対応ができないものかというところです。

○宮山 浩建設課長

今の質問にお答えいたします。

むーるし語ろう会、14集落でも話しました。まず、敷地の所有者、宅地の所有者、できなければ集落のボランティア作業、今、議員がおっしゃられるように、集落のボランティア作業にするにしても、かなりハードルが高いところが多く見受けられるということで、区長さんを通じてでも、本人からでも周辺の方からでも、建設課のほうに要望書を出していただければ対応いたしますというふうに、座談会のほうでもお答えしております。

特に、集落内とか緊急車両、救急車、消防車が木に引っかかって通れないようなことがあると一大事でございますので、そういうところから優先的に、建設課のほうではやっていきたいと思っております。

また、キビ運搬車が走りにくいところも、コーラル舗装と一緒に、コーラル舗装の要望も建設課のほうでは受けておりますし、そういうキビ運搬業者のほうからもちよこちょ依頼が来ておりまして、そういうところについては、多面的でできないところは建設課のほうで、早急に搬出時期の前には対応したいと思っておりますので、建設課のほうに要望書を上げていただければと考えております。

○9番（久田 高志議員）

要望書というよりは、各集落で取りまとめていただいて、どこどこのどの辺でというやり方のほうがよろしいんじゃないでしょうか。

○宮山 浩建設課長

個々に1枚ずつ要望書ということじゃなくて、瀬滝から、もう例えばこの10ヶ所とか、そういう形でも全然構いませんので、各集落から例えば10ヶ所、15ヶ所上がってきても、本当に緊急性のあるところから、建設課のほうでは対応させて

いただきたいと考えております。

○9番（久田 高志議員）

分かりました。集落内の対応はぜひ上手にさせていただきたいと思います。

あと、これは町道、農道、もちろんその路面じゃなくて、今度は法面、農地に関しては保全作業等々で対応はしているところもあるんですけども、明らかにちょうどその法面が町有地なんです。あちこちにもう普通に素人が手のこで切れるような木じゃないものが相当数増えてきていて、要は農地の妨げになったり、方言で言ったら、畑アウにしたり、日当たりが悪くて湿っけが多くなったり、もちろん個人の農地は、やっぱりもちろん個人でお金をかけてしないといけないと思っているんですが、町道の法面、保全作業でもう対応できないような、もちろん個人的にも相談したりしましたけれども、自分に関連するところは。重機でも折れないぐらいの大木になっているところがかかり出てきているんです。

こういうところは、もちろんススキぐらいだったら、野焼きをしたり刈ったり、それは隣接の農地の方が、そのぐらいは頑張ろうかと頑張っていただけだと思うんですが、やはりもう手に負えないような木は、やはり町として何かしらの対応をしていただきたいと。言っちゃなんですけど、私は個人的にしましたけど。何とかそういう対応をしていただけないかなという思いでございます。いかがでしょうか。

○宮山 浩建設課長

今、建設課の作業員、先ほど町長が申しました6名で、北から南まで走り回って除草作業をしておりますが、さっき言われた集落内のそういう高木の伐採作業とか、今、言われる農地、畑総地区のそういう法面、町道法面にある例えばアカギとか、そういう高木、太い木、そういうのを伐採する作業員を、まだできれば新年度は別途雇用してでも回らないと、間に合わないのかなというのが今の考えです。今いる6人でそこまで全部を回ろうとすると、今度は逆に普通の町道管理に少し支障が出るかなと思っておりますので、島議員のおっしゃったバケット車も併せて、新年度は新たなそういう予算の獲得が必要かなとも考えておりますので、この半年間くらいで検討させていただきたいと思います。

○9番（久田 高志議員）

ぜひ、中には利用できそうな材木も見当たりますので、ぜひいろいろ再利用して、敷料にしたり、そういったことにも活用できて、それこそSDGsじゃないですけど、循環型の環境につながっていくような、そういったものもございまして、ぜひ農地の妨げになっているような大木に関しては、早急な対応を要請したいと思います。お願いいたします。

○森田 弘光町長

お答えいたします。

午前中もそのような意見がございまして、むーるし語ろう会、集落座談会でほとんどの集落から集落内の高木の管理、それから、また一部では、今、久田議員からおっしゃっているようなご意見もございました。そこについて、今、建設課長がいろいろと悩ましているようですが、午前中、うちの副町長がお話ししたんですけど、これは来年度に向けて、町全体としてこれをどう対応していくかということは、しっかりと議論を執行部の中で議論し、またなかなかうまい知恵が出ない、あとは予算をつけたらOKだという話になるのかどうかそこも、ちょっとそこら辺も含めて、あともう一つが空き家対策ですか。空き家が非常に今多くなって困っていると、そして、ある面、空き家という状況じゃなくて、地域に少し危ない状況にもなっているんだというような意見もありましたので、この2つについては、やっぱり町として何ができるか、どのような方策ができるかということは、しっかりとそれぞれ所管課だけに任せるということではなくて、町全体の課題として捉えていきたい、そしてまた、少しまた遅いと言われるかも知れませんが、新年度の中には、そういったことをしっかりとまた皆さん方にご提案できるような形ができればなど、私は先般のむーるし語ろう会を終えた段階で、課長会の中でもそのことは課長の皆さん方にお話ししましたし、しっかりとまた議論を詰めていければと思っています。

○9番（久田 高志議員）

すばらしい答弁だと思います。ぜひ、法面の大木を除去することによって、サトウキビだと、1畝分でも間違いなく単収は増えてきますので、ぜひ対応していただきたいと要請して、すばらしい答弁が続く中で、町長、申し訳ないです。耳も痛くなるかと思いますが、政治姿勢について質問させていただきたいと思います。

まず、1回目の答弁でありました令和7年6月4日付第一審判決が言い渡されました。2千142万9千68円を連帯して、補助参加人らに対して請求しなさいという判決でございました。

その後、町が控訴するという理由で、控訴理由もしっかりと答弁の中に入っていないけれども、私が確認したところ、この2千142万のこの金額を減額、要は今まであった寄附行為やら減給行為を差し引かれていないんじゃないかと、それを認めてくれという控訴理由になっております。果たしてこれは町がすべき控訴だったんでしょうか。入ってくるお金を減らすように町が控訴したわけです。率直にどうお考えでしょうか。

○森田 弘光町長

町に入ってくるお金を町が減額するという、そこについて、私というか町としましては、いわゆる補助参加人という方々から約1千800万の寄附金もしくは

協力金として町は受け取っております。これは一般財源として歳入にも組み込まれています。そういう中で、今回の第一審の判決の中で、そこについては加味されなくて、さらに先ほどの今、久田議員のおっしゃっている2千100万を損害賠償金として取るべきだという第一審の判決については、今、天城町のためになるお金だからという今の久田議員の意見には、町としては汲みすることが難しいということで判断しております。

いわゆる補助参加人の皆さんに対して、実質的にはその加算金という損害額1千800万とさらに2千100万ですか、超えた損害額を負わせるというそういった第一審の判断については、町としては汲みすることはできないという考え方でありました。

そういう中で、6月17日には上級審に控訴したいということで議会の議決を経て、今の現在に至っているということでもあります。そのために、いわゆる町に入ってくるからいい、ちょっと平準な言い方かも知れませんが、町にお金が入ってくるからいいんじゃないかという形の中では、やはりその補助参加人らのこれまでの納めた金額、さらに損害賠償として2千100万を支払えという判決については、上級審でさらに適正な判断を求めたいという観点で、今回、高等裁判所のほうに控訴したということでございます。

○9番（久田 高志議員）

町長も答弁苦しいと思います。補助参加人、もちろん町長も当事者ですので。要は汲めないというこの言い回しもちょっと気になるんですが、結局、この控訴は臨時議会のときもございました。誰のための控訴なんですかと。今のお話、答弁を聞く限り、町のためじゃないんです。補助参加人のために町長は控訴しているんですが、何かおかしくないでしょうか。

○森田 弘光町長

繰り返しになりますけれども、1千800万強の金については、寄附金もしくは協力金として、町の会計の中に一般財源として組み入れているんですよということが認めていただけなかったということでもありますので、町としては、そこについてはしっかりと加味していただきたいということでもありますので、町としては上級審に控訴したということでもあります。

○9番（久田 高志議員）

であれば、町長、通常、その補助参加人が控訴すべき案件じゃないでしょうか。

○森田 弘光町長

補助参加人が控訴するという手段があるかと思っております。補助参加人の一人の業者の方は、控訴したというように伺っております。

○9番（久田 高志議員）

これ、補助参加人が控訴していれば、こういった質問も出ないわけです。要は、後の質問、まだ答弁いただいていけませんので後でもう一回お尋ねはしますけれども、要はその業者のほうは控訴状が出ています。ただ、その寄附に関してなんて一切控訴理由の中になんていんです。もうはなから町に言われたとおりに自分たちはただけなんだと。だから自分たちは補助金に関しても知りませんという控訴をしているわけです。

そして、補助参加人がまた、もう一方の4名の方々が控訴する分には、町長としても答弁がしやすかったはずなんです。町が控訴するんじゃないで。町は、この控訴審の結果を待って判断したいというもっと気楽な答弁ができたはずなんです。町のためにならない、その補助参加人のためだけの控訴にまた税金を投入したわけです。これは町長、どなたかアドバイスする方がいらっしやらなかったんですか。通常は補助参加人の方々がすべき案件です、これ。どなたもアドバイスなかったんでしょうか。

○禰 清次郎副町長

控訴の提起の臨時会でも、やはり町長と同じような答弁をしたかと思います。1千801万1千171円、この寄附であるとか協力金であるとかそういったものが、裁判所から命令されたものに加味されていなかったという点で、今回、町として控訴したというのは再三申し上げてきたところであります。

その中で、やはり補助参加人対象者になる方からもありますので、やはり再度また請求することによって、重複、二重になるのではないかという思いもございます。

○9番（久田 高志議員）

副町長に答弁いただくとちょっと心苦しいんですが、一度も請求はしていないんです。善意の寄附で寄附をされているわけですので、ですので、これも町長、臨時議会のときに申し上げました。要は寄附行為とかそういうのを気にするようであれば、まず調定を起こして、歳入科目をつくって納付書をもって納付をすれば全額認められたんです。町長は議会にも諮って報酬を減額したわけです。これが町長の報酬なんです。言っている意味分かりますか。もともとのこれを減らしてこの差額を入れたんだというのは、ちょっと主張が違うと思うんです。

○森田 弘光町長

お答えします。

これにつきましては、久田議員とやり取り、繰り返しになるかと思っておりますが、臨時議会の控訴に対する議案の審議のときにもそのようなお話をさせていただきましたけれども、政治家というものの、現金でお金を納めるということについては、

寄附行為になるということで、公職選挙法に抵触するということがありますので、いわゆる納付書をもって現金で納付することは不可であるという認識の中で、それではどのような形があるかということの中で、町長の給料を減給してそれに対応しようという考え方の中でさせていただきました。

これについても、今回の第一審の中で認めていただいておりますので、ここについては、これからまた議論が控訴審の中であるかと思っておりますので、その中で上級審の判断を待つということで私はやっております。そこについてはご理解くださいというよりは、もう6月17日に議会にも諮って、控訴するということについてはやったわけであります。

○9番（久田 高志議員）

その臨時議会、ユーチューブの再生回数が1万回を超えるほど注目をされた臨時議会のごようございます。町長、何度も申し上げますけれども、例えば、町長、軽自動車を持たれていますよね。軽自動車の税金を納付したら寄附行為で何か悪くなるんですか。だから調定を起こして、要は、言い方は悪いですが、小細工しなければ、要はこのときの弁済金だということで調定を起こして、歳入項目をつくって納付書を出して納めれば済んでいた話なんです。それは寄附行為にも何にもならないんです。後の祭りですので、どなたか町長にそういった冷静なアドバイスをされる方をちょっとつくったほうがいいと思います。あまりにも何かむちゃぶり過ぎているような気がしますので、申し上げておきます。

そして、1回目の答弁で、そういう考えを持っていないと、議長、これはしっかりと質問を出しておりますので、メリットがあるかないかの答えなんです。町としてのメリットがあるかないか、それだけお答えいただけないでしょうか。

○森田 弘光町長

1回目の答弁でもお答えしましたがけれども、メリット、デメリットの問題ということでは、これは久田議員が私に問合せを今取っているわけでありますので、私はメリット、デメリットの問題ではないというふうにお答えいたしました。

その損害の枠を超えた請求、そういったものについては、可か否かを上級審に問いたいということでありますので、町にメリットがあるのかないのかということについては、それについては、そういったメリット、デメリットには関係ないと言ったらおかしいんですけども、そういったことではないということを第1回目の答弁で申し上げたと思っております。

○9番（久田 高志議員）

そういったお考えですか。入ってくるお金を減額しようとすることは、天城町としては何のメリットもございません。かえってデメリットしかないんです。ですの

で、控訴審だけは、何度も申し上げますけれども、補助参加人、あなた方個人で打って出るべきだった訴訟だと思っております。

これ、もう1点確認しますが、この補助参加人の方々からの控訴状というのがまだ届いてないようでございます。控訴意見書も届いていないようでございます。これはどのようなになっているのでしょうか。

○森田 弘光町長

補助参加人として、また別の弁護士先生を個人的には頼んで委嘱をして、今、捉えてこの控訴審には臨みたいと思っております。

○9番（久田 高志議員）

控訴審、三者三様で出てくるので、どっかで一本化されるはずなんです。ですので、本来であれば、町が出るべきところではなかったと思っていますので、その辺は重々に反省をしていただきたいと申し添えて、今回の質問を終わりたいと思います。

お疲れさまでした。

○議長（上岡 義茂議員）

以上で、久田高志議員の一般質問を終わります。

本日の日程は全部終了しました。

明日は午前10時から開会いたします。

本日はこれで散会します。お疲れさまでした。

散会 午後 4時50分